OLYMPUS®

デジタルカメラ

μ-1070

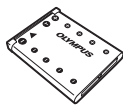
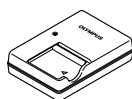
取扱説明書

- オリンパスデジタルカメラのお買い上げ、ありがとうございます。カメラを操作しながらこの説明書をお読みいただき、安全に正しくお使いください。特に「安全にお使いいただくために」は、製品をご使用になる前に良くお読みください。またお読みになったあとも、必ず保管してください。
- 海外旅行などの大切な撮影の前には試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。
- 取扱説明書で使用している液晶画面やカメラのイラストは実際の製品とは異なる場合があります。

ステップ 1

箱の中身を確認する

デジタルカメラ

ストラップ

リチウムイオン電池（LI-42B）

充電器（LI-41C）

USB ケーブル

AV ケーブル

OLYMPUS Master 2
CD-ROM

microSD
アタッチメント

その他の付属品 : 取扱説明書（本書）、保証書

ステップ 2

カメラを準備する

「カメラを準備する」（p. 14）

ステップ 3

写真を撮って再生する

「撮影する・再生する・消去する」（p. 18）

ステップ 4

カメラの使い方を知る

「設定操作は 3 種類」（p. 3）

ステップ 5

プリントする

「ダイレクトプリント（PictBridge）」（p. 45）
「プリント予約（DPOF）」（p. 48）

目次

Web 版 取扱説明書

オリンパスホームページにて作例写真を使った撮影テクニックを紹介しています。
http://www.olympus.co.jp/jp/imsg/webmanual/

設定操作は 3 種類

メニューで操作する

撮影や再生時に使う機能、また日時や画面表示設定などカメラの様々な設定はメニューで操作します。

❗ 現在設定されている機能の組み合わせ、あるいは **SCN** モード（p. 20）によっては、選択できないメニューがあります。

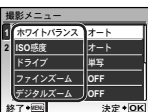
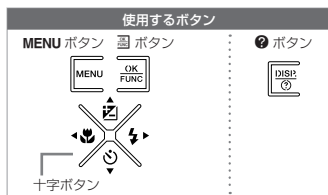
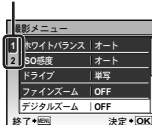
1 **MENU** ボタンを押す。

● 例として［デジタルズーム］を設定します。

撮影トップメニュー

2 ▲▼◀▶ で目的のメニューを選び OK ボタンを押す。

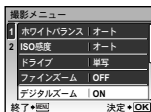
サブメニュー 1

❗ ❓ ボタンを押すと、押している間、説明（メニューガイド）が表示される項目があります。

3 ▲▼ で目的のサブメニュー 1 を選び OK ボタンを押す。

❗ すばやく目的のサブメニューに移動するには、◀ でページタブをハイライトさせてから、▲▼ でページタブを移動し、▶ でサブメニュー 1 に戻ります。

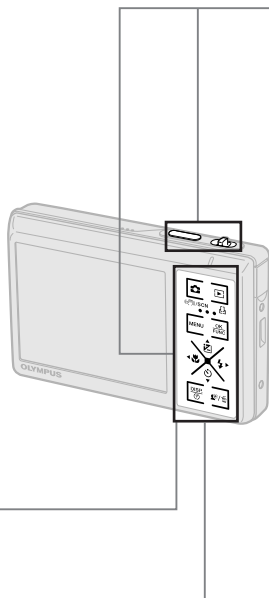
❗ OK ボタンを押すと、さらにメニューが表示される機能があります。

4 ▲▼ で目的のサブメニュー 2 を選び OK ボタンを押す。

● 設定が確定して 1 画面前に戻ります。

❗ 設定後、さらに個別の操作があることがあります。詳細は「メニュー設定」p. 29 〜 44 をご覧ください。

5 **MENU** ボタンを押して設定を終える。

ダイレクトボタンで操作する

撮影時によく使う機能はダイレクトボタンで操作します。

シャッターボタン（p. 18）

ズームレバー（p. 23、27）

K/h/s ボタン（P ／ M ／ぶれ軽減／ s ／ B モード）（p. 5、18、20、21）

q/< ボタン（再生／かんたんプリント）（p. 5、19、45）

F ボタン（露出補正）（p. 23）

& ボタン（マクロ撮影）（p. 24）

ボタン（フラッシュ撮影）（p. 23）

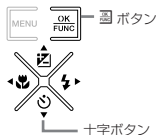
Y ボタン（セルフタイマー撮影）（p. 24）

DISP./E ボタン（表示切替／メニューガイド）（p. 25、3）

P/D ボタン（パノラマ／顔検出パーフェクトショット／比較ウィンドウ／ LCD ブースター／消去）（p. 26、19）

FUNC メニューで操作する（p. 25）

撮影時によく使うメニュー機能は、FUNC メニューを使うと、少ない手順で設定できます。

B ボタン（p. 3、25）

メニューインデックス

撮影に関連するメニュー

撮影モードのときに設定することができます。

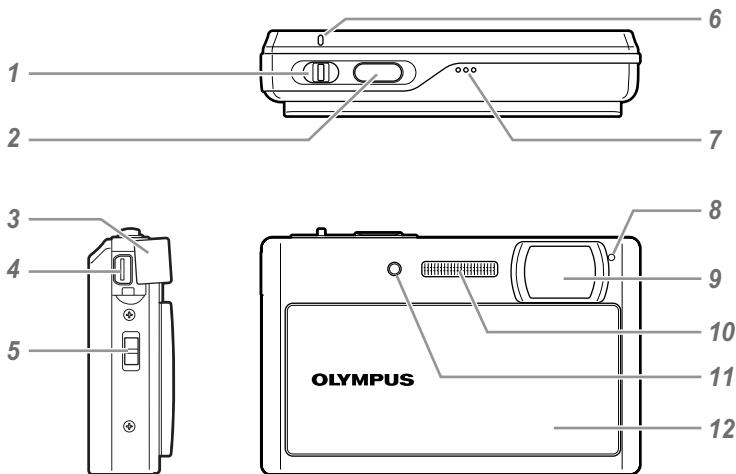
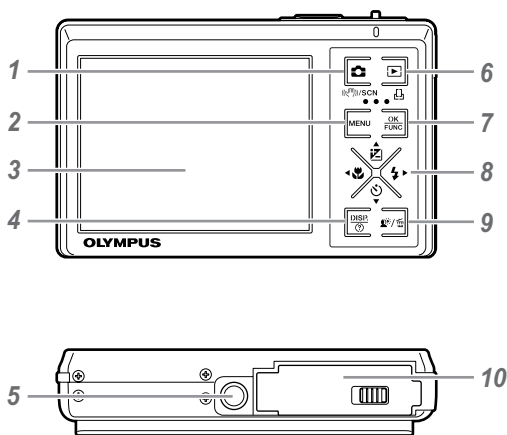
撮影トップメニュー

再生・編集・プリントに関連するメニュー

ボタンを押して再生中に設定することができます。

再生トップメニュー

各部の名前

カメラ本体

1 ズームレバー .... p. 23、27
2 シャッターボタン............ p. 18、52
3 コネクタカバー......... p. 44、45、50
4 マルチコネクタ .... p. 44、45、50
5 ストラップ取付部....................p. 14
6 カードアクセスランプ ....p. 58
7 スピーカー................................. —
8 録音マイク...................... p. 32、38
9 レンズ ....p. 56
10 フラッシュ ....p. 23
11 セルフタイマーランプ ...... p. 21、24
12 レンズバリア .... p. 17、18

1 　/ /SCN ボタン
（P ／ iAUTO ／ぶれ軽減／ SCN ／ モード）............p. 5、18、20、21

2 MENUボタン .... p. 3、5

3 液晶モニタ...........p. 8、18、42、52

4 DISP./ボタン
（表示切替／メニューガイド）
...................................p. 3、17、25

5 三脚穴 .... —

6 /ボタン（再生／プリント）
...................................p. 5、19、45

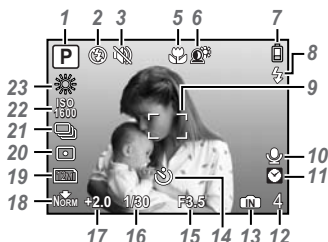
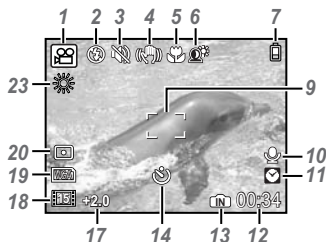
7 ボタン（OK ／ FUNC）.... p. 3、25

8 十字ボタン......................... p. 3、16
ボタン（露出補正）.............p. 23
ボタン（マクロ）................p. 24
ボタン（セルフタイマー）...p. 24
ボタン（フラッシュ）..........p. 23

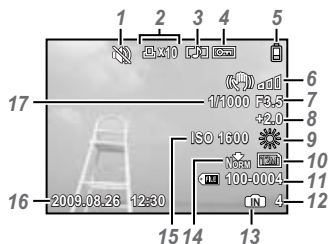
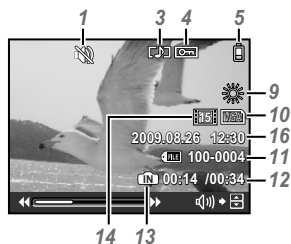
9 /ボタン
（パノラマ／顔検出パーフェクトショット／比較ウィンドウ／LCDブースター／消去）.... p. 19、26

10 電池／カードカバー .... p. 15、53

液晶モニタ

撮影モード表示

静止画

ムービー

1	撮影モード	p. 18、20、32、40
2	フラッシュモード	p. 23
3	消音モード	p. 44
4	電子手ぶれ補正	p. 32
5	マクロ／スーパーマクロ	p. 24
6	顔検出パーフェクトショット	p. 26、32
7	電池残量	p. 14、53
8	フラッシュ発光予告 手ぶれ警告・フラッシュ充電	p. 52
9	AFターゲットマーク	p. 18
10	録音	p. 22、32
11	デュアルタイム	p. 43
12	撮影可能枚数 撮影可能時間	p. 18、58、59
13	使用メモリ	p. 58
14	セルフタイマー	p. 24
15	絞り値	p. 18
16	シャッター速度	p. 18
17	露出補正	p. 23
18	圧縮モード／フレームレート	p. 29
19	画像サイズ	p. 29
20	測光	p. 31
21	ドライブ	p. 30
22	ISO感度	p. 30
23	ホワイトバランス	p. 30

再生モード表示

静止画

ムービー

1	消音モード	p. 44
2	プリント予約・枚数	p. 39
3	録音	p. 22、32、38、55
4	プロテクト	p. 38
5	電池残量	p. 14、53
6	手ぶれ表示	p. 35
7	絞り値	p. 18
8	露出補正	p. 23
9	ホワイトバランス	p. 30
10	画像サイズ	p. 29
11	ファイル番号	p. 42
12	コマ番号 再生時間／録画時間	p. 19
13	使用メモリ	p. 58
14	圧縮モード／フレームレート	p. 29
15	ISO感度	p. 30
16	日時	p. 17、43
17	シャッター速度	p. 18

目次

再生機能を使いこなす 27

撮影に関連するメニュー 29

再生・編集・プリントに関連するメニュー 35

カメラの設定に関連するメニュー 40

プリントする 45

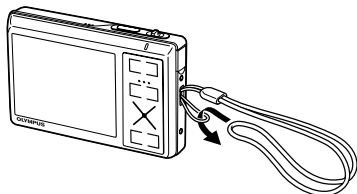
付属のOLYMPUS Master 2を使う 50

使い方のヒント 52

資料 56

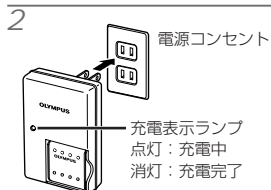
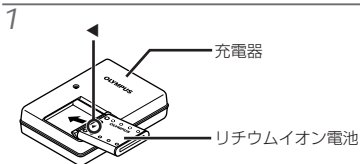
索引 66

カメラを準備する

ストラップを取り付ける

最後にストラップを少し強めに引っ張り、抜けないことを確認してください。

電池を充電する

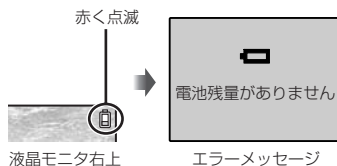
1

2

お買い上げのとき、電池は十分に充電されていません。お使いになる前に、充電ランプが消えるまで(約2時間)電池を充電してください。

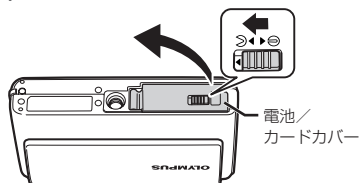
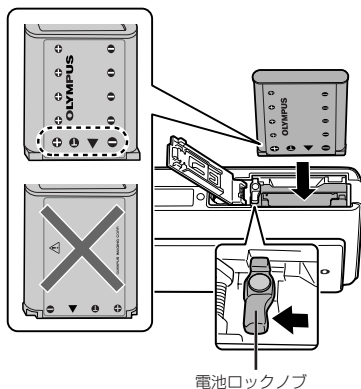
充電表示ランプが点灯しない、または点滅する場合は、電池が正しく取り付けられていないか、電池または充電器が壊れている可能性があります。

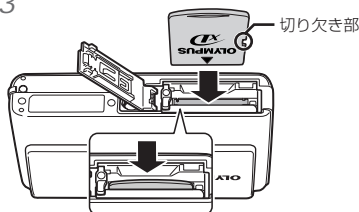
電池と充電器については「電池／充電器について」(p. 56)をご覧ください。

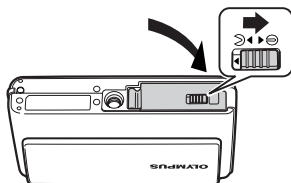
電池の充電時期

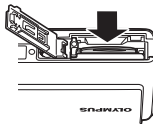
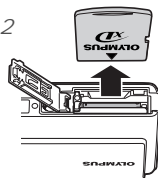
次のエラーメッセージが表示されたら電池を充電してください。

電池とxD-ピクチャーカード™（別売）を入れる

xD-ピクチャーカードおよびmicroSDアタッチメント以外は、絶対にカメラに入れないでください。

1

2

- 電池は➕を電池ロックノブ側にして▼側から入れてください。電池を逆に入れるとカメラが動作しません。
- 電池ロックノブを矢印の向きに押しながら電池を入れます。
- 電池を取り出すには、電池ロックノブを矢印の向きに押してロックを外してから取り出します。
- 電池／カードカバーの開け閉めの際は、電源を切ってください。

3

- カードをまっすぐに差し、カチッと音がするまで押し込んでください。
- コンタクトエリアには、直接手を触れないでください。

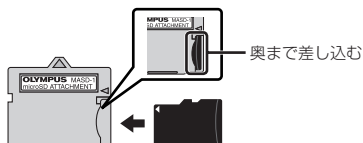
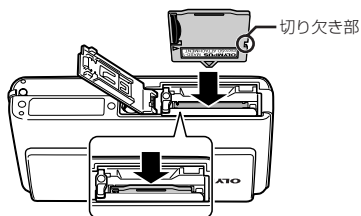
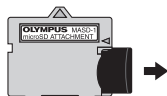
4

- このカメラはxD-ピクチャーカード（別売）を入れなくても、内蔵メモリを使って撮影することができます。「xD-ピクチャーカード（カード）を使う」（p. 57）
- 「内蔵メモリとxD-ピクチャーカードの撮影可能枚数（静止画）／連続撮影可能時間（ムービー）」（p. 58）

xD-ピクチャーカードを取り出すには

- カチッと音がするまでカードを押しこみ、ゆっくり戻してから、カードをつまんで取り出します。

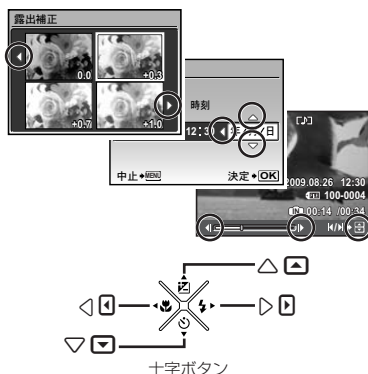
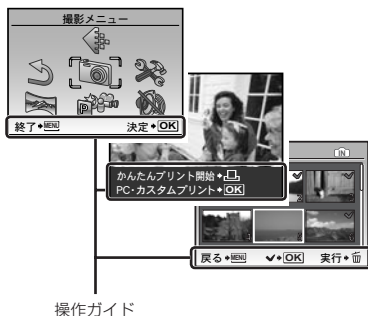
*microSD*カード／*microSDHC*カード(別売)を使う

microSDアタッチメントを使うと、microSDカード／ microSDHCカード(以降、microSDカードと呼びます)を使って撮影することができます。

- 「microSDアタッチメントを使う」(p. 59)

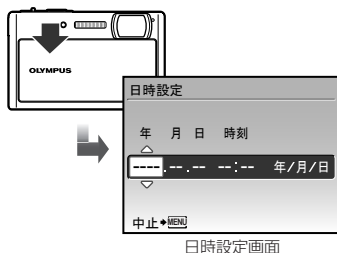
1 microSDカードを取り付ける。

2 microSDアタッチメントをカメラに入れる。

microSDカードを取り外すには

- まっすぐに引き抜きます。
- microSDアタッチメントおよびmicroSDカードのコンタクトエリアには、直接手を触れないでください。

十字ボタンと操作ガイド

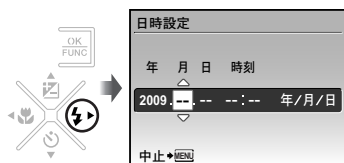
各種設定やムービー再生の画面中に表示される△▽◁▷、[▲][▼][◀][▶]は、十字ボタンを使うことを示しています。

画面下部に表示される操作ガイドは、MENUボタンやOK/FUNCボタン、プリントボタン、消去ボタンを使うことを示しています。

日時を設定する

ここで設定した日時は、撮影した画像のファイル名、日付プリントなどに反映されます。

1 レンズバリアを開けて電源を入れる。

- 日時を設定していないと、日時設定画面が表示されます。

日時設定画面

2 ▲▼で[年]を選ぶ。

3 ▶を押して[年]を確定する。

4 手順2、3と同様に、▲▼◀▶と OK/FUNC ボタンで[月]、[日]、[時刻]（時、分）、[年／月／日]を設定する。

- 「分」を設定中に0秒の時報に合わせて OK/FUNC ボタンを押すと、正確に時刻を合わせることができます。
- 設定した日時を変更するときは、メニューから設定します。[日時設定]（p. 43）

日時を確認するには

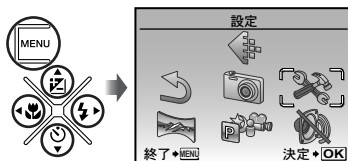
電源オフ時にDISP.ボタンを押すと、「日時」が約3秒間表示されます。

表示言語を切り替える

液晶モニタに表示される、メニュー表示やエラーメッセージの言語を選ぶことができます。

1 **MENU**ボタンを押し、▲▼◀▶で[🔧]（設定）を選ぶ。

2 OK/FUNC ボタンを押す。

3 ▲▼で[🗣☰]を選び、OK/FUNC ボタンを押す。

4 ▲▼で言語を選び、OK/FUNC ボタンを押す。

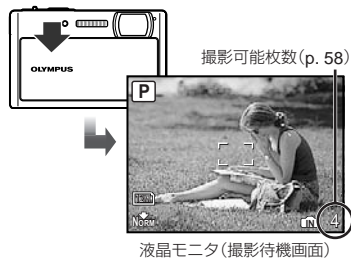
5 **MENU**ボタンを押す。

撮影する・再生する・消去する

最適な絞り値とシャッター速度で撮る（Pモード）

カメラまかせの撮影をしながら、必要に応じて露出補正やホワイトバランスなど多彩な撮影メニュー機能を変更できます。

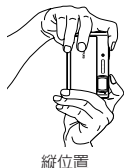
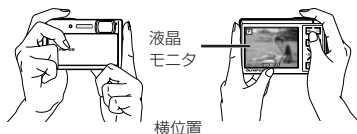
1 レンズバリアを開けて電源を入れる。

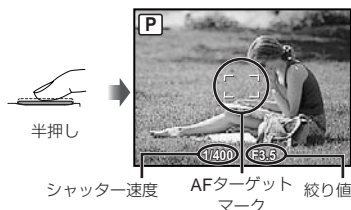
液晶モニタ（撮影待機画面）

Pモード表示でないときは、撮影ボタンを何回か押して切り替えてください。

電源を切るときはレンズバリアを閉じます。

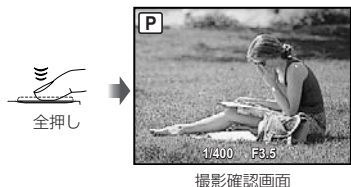
2 カメラを構えて構図を決める。

横位置

縦位置

3 シャッターボタンを半押しして、撮りたいもの（被写体）にピントを合わせる。

- 被写体にピントが合うと露出が固定され（シャッター速度、絞り値が表示され）、AFターゲットマークが緑色に点灯します。
- AFターゲットマークが赤く点滅したときは、ピントが合っていません。もう一度やり直してください。

「ピント」（p. 54）

4 カメラが揺れないよう、シャッターボタンを静かに全押しして撮影する。

撮影確認画面

撮影中に画像を再生するには

再生ボタンを押すと、画像を再生できます。撮影に戻るには、撮影ボタンを押すか、シャッターボタンを半押ししてください。

ムービーを撮影するには

「ムービーを撮る（ムービーモード）」（p. 22）

撮った画像を再生する

1 ▶ボタンを押す。

再生画像

2 ▲▼◀▶で画像を選ぶ。

画像の表示サイズを変えることができます。「インデックス再生・カレンダー再生・クローズアップ再生」（p. 27）

ムービーを再生するには
ムービーを選び、OKボタンを押します。

ムービー

ムービー再生中の操作
音量：再生中に▲▼で調節します。
早送り：▶を押している間、早送りをします。
巻き戻し：◀を押している間、巻き戻しをします。
一時停止：OKボタンを押します。

再生中

頭出し／コマ送り：一時停止中に▲で先頭のコマを、▼で最後尾のコマを表示します。◀を押している間逆再生し、▶を押している間再生します。OKボタンで再生を再開します。

一時停止中

ムービー再生を中止するには
MENUボタンを押します。

再生中の画像を消去する（1コマ消去）

1 消去する画像の再生中にボタンを押す。

2 ▲で[消去]を選び、OKボタンを押す。

[消去]（p. 39）

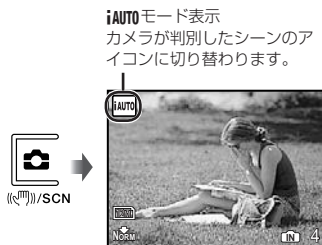
撮影モードを使いこなす

! Kボタンを押すと撮影モードがP、iAUTO、h、SCN、Bの順で切り替わります。他の撮影モードに切り替えると、Pモード以外の撮影モードで設定した機能は、一部を除き切り替えた撮影モードの初期設定に変わります。

カメラまかせで撮影する（iAUTOモード）

カメラが撮影シーンに最適な撮影モードを[ポートレート]、[風景]、[夜景&人物]、[スポーツ]、[マクロ]の中から自動で選択します。シャッターボタンを押すだけで撮影シーンにあった撮影ができるフルオートモードです。iAUTOでは、撮影に関する設定はできません。

1 Kボタンを何回か押してiAUTOにする。

iAUTOモード表示
カメラが判別したシーンのアイコンに切り替わります。

- シャッターボタンを半押しするか、DISP.ボタンを押すと、カメラが自動でどの撮影モードを選択したか確認できます。

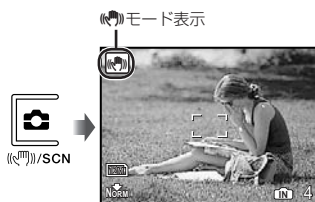
! 撮影シーンによっては、意図した撮影モードにならない場合があります。

! カメラが最適なモードを判定できない場合は、Pモードでの撮影になります。

ぶれ軽減モードを使う（hモード）

撮影時の手ぶれや被写体ぶれを軽減します。

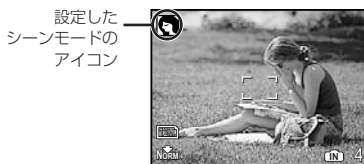
1 Kボタンを何回か押してhにする。

hモード表示

撮影シーンに合ったモードを使う（SCNモード）

1 KボタンをSCN何回か押してSCNにする。

- Eボタンを押している間、選ばれているモードの説明が表示されます。

2 ▲▼でシーンに合った撮影モードを選び、Hボタンを押して確定する。

設定した
シーンモードの
アイコン

SCNモードには、撮影シーン別に最適な撮影設定がプログラムされています。そのため、モードによっては後から設定を変更できない機能があります。

別のSCNモードに変更するには、メニュー操作をします。[撮影モード切換]（p. 32）

サブメニュー1	用途
ポートレート／風景／夜景[*1]／夜景&人物／スポーツ／屋内撮影／キャンドル／自分撮り／夕日[*1]／打ち上げ花火[*1]／料理／文書／スマイルショット[*2]／ビーチ&スノー／プリキャプチャムービー／ムービー	撮影シーンに合ったモードで撮影する。

*1 被写体が暗いときは、ノイズリダクション機能が自動的に働きます。そのときは撮影時間が通常の2倍になり、その間次の撮影はできません。
*2 最初の1コマでピントが固定されます。

笑顔を検出して自動でシャッターを切るには（[スマイルショット]モード）

① [スマイルショット]を選んだ後、カメラを被写体に向ける。
- セルフタイマーランプが点灯します。笑顔を検出すると、自動で3コマ連写します。

手動でシャッターボタンを押しても撮影できます。

被写体によっては、笑顔を検出できないことがあります。

[画像サイズ]は[3M]以下に制限されます。

一瞬のチャンスを逃したくないときは（[プリキャプチャームービー]モード）

① ▲▼で[プリキャプチャームービー]を選び、ボタンを押して確定する。
- 確定した直後からプリキャプチャーの準備がはじまります。

② シャッターボタンを押してムービー撮影をはじめる。
- シャッターボタンを押す前の約2秒間を含む約7秒間のムービー撮影ができます。
- 撮影中は光学ズームが使用でき、オートフォーカスも動作します。

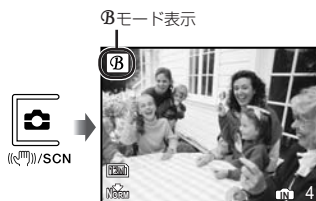
音声は録音できません。

AFターゲットマークは表示されません。

[画像サイズ]は[VGA]／[QVGA]から、[フレームレート]は[30fps]／[15fps]から選択します。

肌をなめらかに整えて撮る（Bモード）

人物の顔をカメラが見つけて、肌をなめらかに整えた画像を撮影することができます。

1 ボタンを何回か押してBにする。

2 カメラを被写体に向け、カメラが検出した顔に現れる枠を確認してから、シャッターボタンを押して撮影する。
- 補正前と補正後の画像がそれぞれ保存されます。
- 補正できなかったときは、補正前の画像のみ保存されます。

被写体によっては、枠が現れなかったり、現れるまで時間がかかることがあります。また、被写体によっては効果が現れないことがあります。

補正後の画像の[画像サイズ]は[2M]以下に制限されます。

ムービーを撮る(🎥モード)

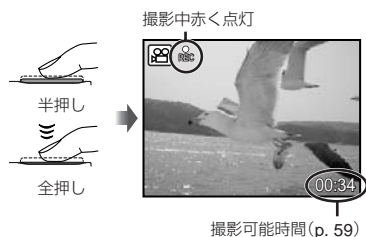
音声を同時に録音します。

1 📷ボタンを何回か押して**SCN**にする。

2 ▲▼で[🎥ムービー]を選び、OK/FUNCボタンを押して確定する。

ズームを使うには

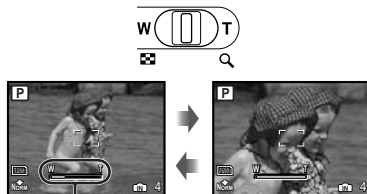
ムービー撮影中は光学ズームを設定できません。[デジタルズーム](p. 31)をお使いください。

3 シャッターボタンを半押しして、撮りたいものにピントを合わせてから、そのまま静かに全押しして撮影をはじめる。

4 シャッターボタンを静かに全押しして撮影を終了する。

撮影機能を使いこなす

光学ズームを使う

ズームレバーで撮影する範囲を調節します。

広角(W)側に倒す　望遠(T)側に倒す

ズームバー

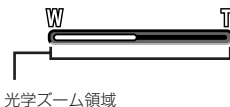
光学ズーム：3倍、デジタルズーム：5倍

画質を落とさずより大きく撮るには

[ファインズーム] (p. 31)

より大きく撮るには

[デジタルズーム] (p. 31)

ズームバー表示の違いでファインズーム、デジタルズームの設定状態がわかります。

フラッシュを使う

撮影状況や表現方法に合わせてフラッシュ機能を選びます。

1 ⚡ボタンを押す。

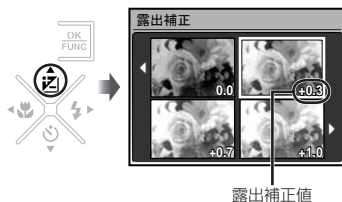
2 ◀▶で設定項目を選び、OK/FUNCボタンを押して確定する。

項目	説明
オート発光	暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。
赤目軽減	予備発光を行い、目が赤く写るのを軽減します。
強制発光	フラッシュが必ず発光します。
発光禁止	フラッシュは発光しません。

明るさを調節する(露出補正)

撮影モード(iAUTOを除く)で、カメラが調節した標準的な明るさ(適正露出)を、撮影意図に応じて明るくしたり暗くしたりできます。

1 ☒ボタンを押す。

露出補正値

2 ▲▼◀▶で好みの明るさの画像を選び、OK/FUNCボタンを押す。

近づいて大きく撮る（マクロ撮影）

被写体に接近しても、ピントが合い大きく写すことができます。

1 ボタンを押す。

2 ◀▶で設定項目を選び、ボタンを押して確定する。

項目	説明
OFF	マクロモードを解除します。
マクロ	被写体に20cm[*1]（30cm[*2]）まで接近して撮影できます。
スーパーマクロ[*3]	被写体に7cmまで接近して撮影できます。50cm以上離れると、ピントは合いません。

[*1] ズームが最もW（広角）側にあるとき。
[*2] ズームが最もT（望遠）側にあるとき。
[*3] ズームは自動的に固定されます。

スーパーマクロ撮影のときは、フラッシュ（p. 23）とズーム（p. 23）は設定できません。

セルフタイマーを使う

シャッターボタンを全押しした後、時間を空けて撮影します。

1 ボタンを押す。

2 ▲▼で設定項目を選び、ボタンを押して確定する。

項目	説明
OFF	セルフタイマーを解除します。
ON	セルフタイマーランプが約10秒点灯し、さらに約2秒点滅した後、シャッターが切れます。

セルフタイマーは撮影のたびに設定しなおしてください。

動作中のセルフタイマーを中止するには

ボタンをもう一度押します。

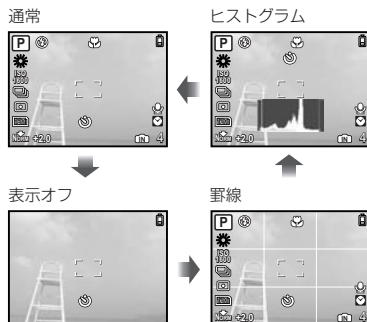
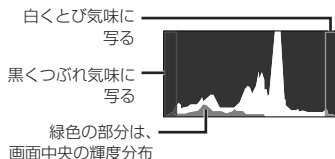
撮影情報表示を切り替える

画面上の情報表示を消したり、構図を確認するために罫線を表示するなど、状況に応じて画面表示を切り替えることができます。

1 DISP.ボタンを押す。

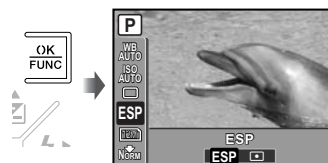
- 押すたびに撮影情報表示が切り替わります。「撮影モード表示」（p. 8）

通常　　　　　　ヒストグラム

表示オフ　　　　　罫線

ヒストグラム表示の意味

FUNCメニューを使う

以下のメニュー機能を、すばやく呼び出して設定することができます。

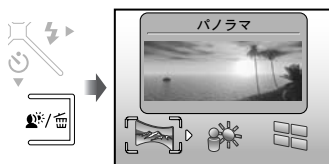
- ［ホワイトバランス］（p. 30）
- ［ISO感度］（p. 30）
- ［ドライブ］（p. 30）
- ［測光］（p. 31）
- ［画質］（p. 29）

1 OK/FUNCボタンを押す。

2 ▲▼でメニュー機能を、◀▶で設定項目を選び、OK/FUNCボタンを押して確定する。

撮影機能をすばやく呼び出して操作する

以下のメニュー機能を、すばやく呼び出して操作することができます。

- ［パノラマ］（p. 33）
- ［顔検出パーフェクトショット］（［顔パーフェクト撮影］p. 32）
- ［比較ウィンドウ］（p. 26）

1 ボタンを押す。

2 ◀▶でメニュー機能を選び、ボタンを押して確定する。

効果を比較しながら撮影する（比較ウィンドウ）

［ズーム］／［露出補正］／［ホワイトバランス］／［測光］から目的の項目を選ぶと、画面が4分割され、設定値に対応した被写体の画像がそれぞれ表示されます。▲▼◀▶で好みの画像を選び、ボタンを押します。

液晶モニタを明るくする（LCDブースター）

ボタンを長押しすると、液晶モニタが明るくなります。10秒間何も操作しないと、元の明るさに戻ります。

再生機能を使いこなす

インデックス再生・カレンダー再生・クローズアップ再生

インデックス再生／カレンダー再生では、すばやく目的の画像を選ぶことができます。クローズアップ(最大で10倍)再生では画像を細部まで確認することができます。

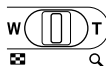
1 ズームレバーをW側またはT側に倒す。

1コマ再生

クローズアップ再生

W T

インデックス再生

W T

カレンダー再生

インデックス再生で画像を選ぶには

▲▼◀▶で画像を選び、OK/FUNCボタンを押すと、選んだ画像の1コマ再生に戻ります。

カレンダー再生で画像を選ぶには

▲▼◀▶で日付を選び、OK/FUNCボタンを押すまたはズームレバーをT側に倒すと、選んだ日付に撮影した画像が表示されます。

クローズアップ再生で画面をスクロールするには

▲▼◀▶で再生位置を移動できます。

画像情報表示を切り替える

撮影時の設定内容を切り替えて表示することができます。

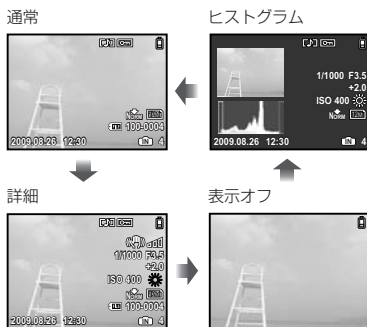
1 DISP.ボタンを押す。

- 押すたびに画像情報表示が切り替わります。

通常

ヒストグラム

詳細

表示オフ

「ヒストグラム表示の意味」(p. 25)

パノラマ画像を再生する

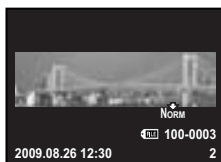
[カメラで合成1]、[カメラで合成2]で合成したパノラマ画像をスクロール再生することができます。

[パノラマ]（p. 33）

1 再生中にパノラマ画像を選ぶ。

「撮った画像を再生する」（p. 19）

2 OK/FUNCボタンを押す。

現在再生中の範囲

パノラマ画像再生中の操作

拡大／縮小：ズームレバーをW側またはT側に倒す。
再生方向：▲▼◀▶を押すと、押したボタンの方向にスクロールします。
一時停止：OK/FUNCボタンを押す。
スクロールを再開：OK/FUNCボタンを押す。
再生中止：**MENU**ボタンを押す。

撮影に関連するメニュー

撮影モードのとき設定することができます。

- 📷は、その機能が設定できる撮影モードを表します。
- 　　は、初期設定を表します。

用途に合わせて画質を選ぶ[画質]

画質

📷: P iAUTO SCN

静止画

サブメニュー1	サブメニュー2	用途
画像サイズ	12M（3968×2976）	A3サイズで印刷する。
	5M（2560×1920）	A4サイズで印刷する。
	3M（2048×1536）	A4サイズ以下で印刷する。
	2M（1600×1200）	A5サイズで印刷にする。
	1M（1280×960）	はがきサイズで印刷する。
	VGA（640×480）	テレビで見たり、メールやホームページで使用する。
	16:9（1920×1080）	風景などの被写体でワイド感を表現したり、ワイドテレビで見る。
圧縮モード	ファイン	高画質で閲覧、印刷する。
	ノーマル	標準画質で閲覧、印刷する。

ムービー

サブメニュー1	サブメニュー2	用途
画像サイズ	VGA（640×480）／QVGA（320×240）	画像のサイズと粗さに応じて画質を選ぶ。 フレームレートの数値が大きい方が滑らかな画像になります。
フレームレート	30 30fps[*1]／15 15fps[*1]	

[*1] コマ／秒

- 「内蔵メモリとxD-ピクチャーカードの撮影可能枚数(静止画)／連続撮影可能時間(ムービー)」(p. 58)

自然な色合いに調整する［ホワイトバランス］

撮影メニュー ▶ ホワイトバランス

: P SCN

サブメニュー 2	用途
オート	撮影シーンに応じてカメラが自動的に調整する。
晴天	晴れた屋外で撮影する。
曇天	曇った屋外で撮影する。
電球	電球の灯りで撮影する。
蛍光灯1	昼光色の蛍光灯の灯り（家庭用照明器具など）で撮影する。
蛍光灯2	昼白色の蛍光灯の灯り（デスクスタンドなど）で撮影する。
蛍光灯3	白色の蛍光灯の灯り（オフィスなど）で撮影する。

撮影感度を選ぶ［ISO感度］

撮影メニュー ▶ ISO感度

: P

国際標準化機構の略称。デジタルカメラの感度はフィルム感度とともにISO規格で定められているため、感度を表す記号として「ISO100」のように表記します。

ISO感度は、数値が小さいほど感度は低くなりますが、十分に明るいシーンではシャープな画像を撮ることができます。また数値が大きいほど感度は高くなり、暗いシーンでも速いシャッター速度で撮影ができます。ただし感度が高くなるにつれ電気的なノイズが増え、画像が粗くなります。

サブメニュー 2	用途
オート	撮影シーンに応じてカメラが自動的に調整する。
50 ／ 100 ／ 200 ／ 400 ／ 800 ／ 1600	ISO感度の数値を固定する。

シャッターボタンを押している間に連続撮影する［ドライブ］

撮影メニュー ▶ ドライブ

: P

サブメニュー 2	用途
単写	シャッターボタンを押すごとに1コマ撮影する。
連写[*1]	最初の1コマで固定したピント、明るさ（露出）、ホワイトバランスで連写する。
高速連写1	［連写］より高速で連写する。
高速連写2	約10コマ／秒の速度で連写する。

[*1] ［画質］（p. 29）の設定により連写速度は異なります。

フラッシュは、［高速連写1］のとき（強制発光）または（発光禁止）のみに制限され、［高速連写2］のときは（発光禁止）に固定されます。

［高速連写1］または［高速連写2］のとき［画像サイズ］は［3M］以下に制限され、［ISO感度］は［オート］に固定されます。［ファインズーム］（p. 31）、［デジタルズーム］（p. 31）は設定できません。

［連写］、［高速連写1］、［高速連写2］のとき、［静止画録音］（p. 32）は設定できません。

画質を落とさずに光学ズームより大きく撮る［ファインズーム］

撮影メニュー ▶ ファインズーム

: P SCN

サブメニュー2	用途
OFF	光学ズームだけで拡大して撮影する。
ON	光学ズームと画像切り出しを組み合わせ拡大して撮影する(最大19倍)。

- 少ない画素数のデータを多い画素数に変換する処理を行わないために、これによる画質の劣化はありません。
- [ON]のとき、[画像サイズ]は[5M]以下に制限されます。
- [デジタルズーム]が[ON]のときは設定できません。
- [スーパーマクロ] (p. 24)のとき、[ファインズーム]は設定できません。

光学ズームより大きく撮る［デジタルズーム］

撮影メニュー ▶ デジタルズーム

: P SCN

サブメニュー2	用途
OFF	光学ズームだけで拡大して撮影する。
ON	光学ズームと組み合わせ拡大して撮影する(最大約15倍)。

- [ファインズーム]が[ON]のときは設定できません。
- [スーパーマクロ] (p. 24)のとき、[デジタルズーム]は設定できません。

明るさを測る範囲を選ぶ［測光］

撮影メニュー ▶ 測光

: P SCN

サブメニュー2	用途
ESP	画面全体で明るさのバランスのとれた撮影をする(画面の中央と周辺を個別に測光します)。
スポット	逆光のとき中央の被写体を撮影する。

- [ESP]のとき、強い逆光下での撮影では、中央が暗く写ることがあります。

ピントを合わせる範囲を選ぶ［AF方式］

撮影メニュー ▶ AF方式

: P SCN

サブメニュー2	用途
顔検出[*1]	人物を撮影する(カメラが自動的に顔を検出し、枠が表示されます。シャッターボタンを半押しして、顔にピントが合うと緑色のAFターゲットマークが表示されます。オレンジ色のときは、顔以外にピントが合ったことを示します)。
iESP	ピント合わせをカメラまかせにして撮影する(ピントを合わせる被写体はカメラが画面内から探して、自動的にピントを合わせます)。
スポット	AFターゲット内の被写体にピントを合わせる。

*1 被写体によっては、枠が現れなかったり、現れるまでに時間がかかることがあります。

静止画撮影時に音声を録音する [静止画録音]

撮影メニュー ▶ 静止画録音

: P SCN

サブメニュー 2	用途
OFF	録音しない。
ON	撮影後、自動的に約4秒間録音する（撮影メモとしてコメントなどを録音すると便利です）。

- 録音するときは、カメラの録音マイク（p. 6）を音源に向けてください。

逆光でも被写体を明るく撮る [顔パーフェクト撮影]

撮影メニュー ▶ 顔パーフェクト撮影

: P SCN

サブメニュー 2	用途
OFF	顔パーフェクト撮影をしない。
ON	逆光で暗くなった人物の顔をカメラが見つけて、明るく撮影する（カメラを被写体に向け、カメラが検出した顔に現れる枠を確認してから、シャッターボタンを押して撮影します）。

- 被写体によっては、枠が現れなかったり、現れるまでに時間がかかることがあります。
- ［測光］（p. 31）は［ESP］に、［AF方式］（p. 31）は［顔検出］に固定されます。

ムービー撮影時の手ぶれを補正する [電子手ぶれ補正]

撮影メニュー ▶ 電子手ぶれ補正

:

サブメニュー 2	用途
OFF	手ぶれ補正機能なしで撮影する（三脚使用時などカメラを固定して撮影するときに設定します）。
ON	手ぶれ補正機能を使って撮影する。

- 手ぶれが大きいときや被写体の動きによっては、補正できないことがあります。
- ［ON］に設定すると、少し拡大されて撮影されます。

撮影モードを切り換える [撮影モード切換]

撮影モード切換

: P iAUTO SCN

サブメニュー 1	用途
P	最適な絞り値とシャッター速度で撮る。（p. 18）
iAUTO	カメラまかせで撮影する。（p. 20）
ぶれ軽減	手ぶれや被写体ぶれを軽減して撮る。（p. 20）
SCN	撮影シーンに合ったモードを使う。（p. 20）
BEAUTY	肌をなめらかに整えて撮る。（p. 21）

パノラマ撮影をする[パノラマ]

パノラマ

: P SCN

サブメニュー 2	用途
カメラで合成1[*1*2*3]	写真を3コマ撮り、カメラで合成する(ターゲットマークとポインタを重ねるように構図を決めるだけで自動的にシャッターが切れます)。各種撮影機能は、あらかじめパノラマ写真に最適な設定に固定されます。
カメラで合成2[*1*2]	写真を3コマ撮り、カメラで合成する(ガイド枠を目安に構図を決め、手動でシャッターを切ります)。
PCで合成	撮影した画像をOLYMPUS Master 2(付属のCD-ROMに収録)でパノラマ写真に合成する。[パノラマ]に切り替える時の[ISO感度]、[SCN]設定で撮影ができます(一部シーンをのぞく)。

[*1] [画質](p. 29)設定は変えられません。
[*2] モード(p. 20)のときは設定できません。
[*3] SCNモード(p. 20)のときは設定できません。

- ピント、露出(p. 18)、ズーム位置(p. 23)、[ホワイトバランス](p. 30)は、1枚目の撮影で固定されます。
- フラッシュは(発光禁止)(p. 23)に固定されます。
- 「パノラマ画像を再生する」(p. 28)

[カメラで合成1]で撮影するには

① シャッターボタンを押して1コマ目を撮影する。

② 2コマ目を撮る方向にカメラを少し向ける。

左から右へ画像をつなぐ場合

③ カメラをゆっくりとまっすぐに動かし、ポインターがターゲットマークに重なる位置でカメラを止める。

- 自動的にシャッターが切れます。

- 2コマだけ合成するときは、3コマ目の画像を撮影する前にボタンを押します。

④ 手順③と同様に3コマ目を撮影する。

- 3コマ目の撮影が終わると自動的に合成処理が行われ、合成された画像が表示されます。

- 撮影の途中で合成を中止するには、**MENU**ボタンを押します。
- 自動でシャッターが切れないときは、[カメラで合成2]または[PCで合成]を選びます。

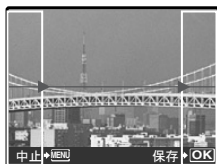
[カメラで合成2]で撮影するには

① ◀▶で画像をつなぐ方向を選ぶ。

② シャッターボタンを押して1コマ目を撮影する。

● ガイド枠が目安として表示されます。

1コマ目

③ つなぎ目がガイド枠と重なるように2コマ目の構図を決める。

2コマ目の構図

④ シャッターボタンを押して2コマ目を撮影する。

! 2コマだけ合成するときは、3コマ目の画像を撮影する前にOK/FUNCボタンを押します。

⑤ 手順③~④と同様に3コマ目を撮影する。

● 3コマ目の撮影が終わると自動的に合成処理が行われ、合成された画像が表示されます。

! 撮影の途中で合成を中止するときは、**MENU**ボタンを押します。

[PCで合成]で撮影するには

① ▲▼◀▶で画像をつなぐ方向を選ぶ。

② シャッターボタンを押して1コマ目を撮影し、2コマ目の構図で構える。

● ガイド枠を目安に、隣り合う2コマの画像が重なる構図で構えます。

③ 手順②を繰り返して必要なコマ数を撮影し、最後にOK/FUNCボタンを押す。

! 警告マーク[手ぶれ]が表示されると、それ以上撮影を続けられません。最大10コマまでパノラマ撮影が可能です。

! パノラマ写真の合成手順はOLYMPUS Master 2のヘルプをご覧ください。

撮影機能を初期設定に戻す[リセット]

リセット

カメラ: P iAUTO (手ぶれ) SCN B 動画

サブメニュー1	用途
実行	以下のメニュー機能を初期設定に戻す。 • フラッシュ（p. 23） • 露出補正(p. 23） • マクロ(p. 24） • セルフタイマー（p. 24） • [画質]（p. 29） • [パノラマ]（p. 33） • **SCN**モード(p. 20） • 撮影情報表示(p. 25） • [撮影メニュー]内の機能（p. 29 ～ 34）
中止	現在の設定を残す。

再生・編集・プリントに関連するメニュー

▶ボタンを押して画像の再生中に設定することができます。

自動再生する[スライドショー]

スライドショー

サブメニュー 1	サブメニュー 2	サブメニュー 3	用途
すべて／静止画／ムービー／カレンダー	標準／スクロール／フェード／スライド／ズームダウン／ズームアップ／モザイク／ブラインド／キューブスピン／ランダム	OFF ／ 1 ／ 2	スライドショーを実行する範囲と画像の転換効果(スタイル選択)、スライドショー中に流す音楽(BGM)を選ぶ。

スライドショーをはじめるには

[BGM]の設定を確定してOKボタンを押すと、スライドショーがはじまります。スライドショーを中止するには、OKボタンまたは**MENU**ボタンを押します。

画像を補正する[かんたん補正]

かんたん補正

- すでに編集、補正済みの画像は、補正できません。
- 画像によっては、補正効果が得られない場合があります。
- 補正により画像が粗くなることがあります。

サブメニュー 1	用途
すべて	[電子手ぶれ補正] [自動明るさ補正] [赤目補正]を同時に行う。
電子手ぶれ補正	画像のぶれを補正する。再生時に表示される(手ぶれアイコン)はぶれの度合いを表しています。(手ぶれアイコン)はぶれの無い画像、補正済みの画像を表しています。
自動明るさ補正	逆光や光量不足などで暗くなった部分を明るくする。
赤目補正	フラッシュ撮影で赤くなった目の色を補正する。

① ▲▼で補正項目を選び、OKボタンを押す。

② ◀▶で補正する画像を選び、OKボタンを押す。

- 補正した画像が、別画像として保存されます。

肌や目を補正する[ビューティーメイク]

ビューティーメイク

- 画像によっては、補正効果が得られない場合があります。

サブメニュー 1	サブメニュー 2	用途
すべて	—	[クリアースキン] [シャイニーアイ] [ドラマチックアイ]を同時に行う。
クリアースキン	弱／中／強	なめらかな肌に補正する。補正効果を画面で確認しながら3段階から選ぶことができる。
シャイニーアイ	—	瞳のコントラストを強調する。
ドラマチックアイ	—	目を大きくする。

① ▲▼で補正項目を選び、OKを押す。

② ◀▶で補正する画像を選び、OKを押す。

- 補正した画像が、別画像として保存されます。

[クリアースキン]を選んだ場合

▲▼で補正レベルを選び、OK/FUNCを押す。

画像のサイズを変える[リサイズ]

編集 ▶ リサイズ

サブメニュー 2	用途
VGA 640×480	大きいサイズで撮った画像を、メール添付用などのために小さい別画像として保存する。
QVGA 320×240	

① ◀▶で画像を選び、OK/FUNCボタンを押す。

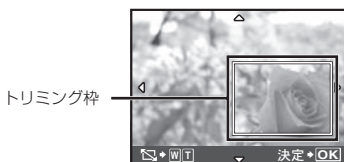
② ▲▼で画像サイズを選び、OK/FUNCボタンを押す。

● リサイズされた画像が、別画像として保存されます。

画像の一部を切り出す[トリミング]

編集 ▶ トリミング

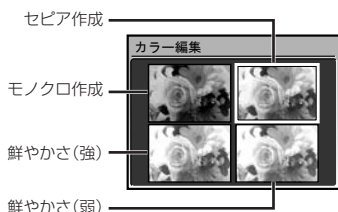
① ◀▶で画像を選び、OK/FUNCボタンを押す。

② ズームレバーでトリミング枠の大きさを選び、▲▼◀▶で枠を移動する。

③ 切り出す範囲が決まったら、OK/FUNCボタンを押す。

● 編集した画像が、別画像として保存されます。

画像の色合いを変える[カラー編集]

編集 ▶ カラー編集

サブメニュー 2	用途
モノクロ作成	白黒写真にする。
セピア作成	セピア色のモノトーン写真にする。
鮮やかさ(強)	彩度(色の濃さ)を強くした写真にする。
鮮やかさ(弱)	彩度(色の濃さ)をやや強くした写真にする。

① ▲▼◀▶でお好みの編集画像を選び、OK/FUNCボタンを押す。

● 選んだ編集画像が、別画像として保存されます。

画像とカレンダーを合成する［カレンダー合成］

✂編集 ▶ カレンダー合成

① ◀▶で合成に使う画像を選び、OKボタンを押す。
② ◀▶でカレンダーを、▲▼で画像の向きを選び、OKボタンを押す。
③ ▲▼でカレンダーの［年］を選び、▶を押す。
④ ▲▼でカレンダーの［月］を選び、OKボタンを押す。
- 編集した画像が、別画像として保存されます。

周辺部をぼかして顔を強調する［センターフォーカス］

✂編集 ▶ センターフォーカス

❗ 正面向きで一番大きく写っている顔が、編集の対象となります。画像によっては、この条件に合った部分を検出できず、編集できないことがあります。

① ◀▶で編集する画像を選び、OKボタンを押す。
- 編集した画像が、別画像として保存されます。

ムービーから9場面を切り出す［インデックス作成］

✂編集 ▶ インデックス作成

① ◀▶でムービーを選び、OKボタンを押す。
② ▲▼◀▶で先頭のコマを選び、OKボタンを押す。
③ ▲▼◀▶で最後尾のコマを選び、OKボタンを押す。
- 9画面を切り出して1つの静止画として新規保存（インデックス作成）します。

ムービーの一部を切り出す［ムービー編集］

✂編集 ▶ ムービー編集

サブメニュー2	用途
新規作成	オリジナルのムービーはそのままに、ムービーの一部を別画像として保存する。
上書き保存	指定したムービーの一部だけを残して、上書き保存する。

① ◀▶でムービーを選ぶ。
② ▲▼で［新規作成］または［上書き保存］を選び、OKボタンを押す。
③ ◀▶で切り出す部分の先頭コマを選び、OKボタンを押す。
- 先頭／後尾コマの指定中は、▲▼でムービーの先頭／後尾に移動できます。

④ ◀▶で切り出す部分の後尾コマを選び、OKボタンを押す。
- 切り出したムービーが保存されます。

画像を消去できないようにする［プロテクト］

▶再生メニュー ▶ プロテクト

> プロテクトされた画像は［1コマ消去］(p. 19)、［選択消去］［全コマ消去］(p. 39)では消去できませんが、［内蔵メモリ初期化］／［カード初期化］(p. 40)を行うと消去されます。

サブメニュー 2	用途
OFF	画像を消去できる状態にする。
ON	内蔵メモリ／カードの初期化以外の方法で消去できないように画像を保護する。

① ◀▶で画像を選ぶ。
② ▲▼で［ON］を選ぶ。
③ 必要に応じて手順①、②を繰り返して保護する設定を続け、最後にOK/FUNCボタンを押す。

画像を回転させる［回転表示］

▶再生メニュー ▶ 回転表示

サブメニュー 2	用途
+90°	画像を時計回りに90°回転させて表示する。
0°	画像を回転させずに表示する。
–90°	画像を反時計回りに90°回転させて表示する。

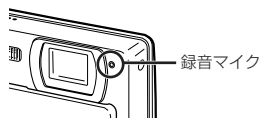
① ◀▶で画像を選ぶ。
② ▲▼で回転方法を選ぶ。
③ 必要に応じて手順①、②を繰り返して他の画像にも続けて設定を行い、最後にOK/FUNCボタンを押す。

> ［回転表示］の設定は電源を切った後も保持されます。

静止画に音声を追加する［録音］

▶再生メニュー ▶ 録音

サブメニュー 2	用途
実行	静止画の再生中に約4秒間、音声を追加(録音)する(撮影メモとしてコメントなどを録音すると便利です)。
中止	録音しない。

① ◀▶で画像を選ぶ。
② 録音マイクを音源に向ける。

③ ▲▼で［実行］を選び、OK/FUNCボタンを押す。

- 録音がはじまります。

画像を消去する[消去]

消去

- 消去の前に大切なデータが記録されていないことを確認してください。

サブメニュー1	用途
選択消去	画像を1コマずつ選びながら消去する。
全コマ消去	内蔵メモリ／カードの画像をすべて消去する。

- 内蔵メモリの画像を消去するときは、カードをカメラに入れないでください。
- カード内の画像を消去するときは、あらかじめカードをカメラに入れてください。

[選択消去]するには

① ▲▼で[選択消去]を選び、ボタンを押す。

② ▲▼◀▶で画像を選び、ボタンを押して✓マークをつける。

③ 手順②を繰り返して消去する画像を選び、最後にボタンを押す。

④ ▲▼で[消去]を選択し、ボタンを押す。

- ✓マークをつけた画像が消去されます。

[全コマ消去]するには

① ▲▼で[全コマ消去]を選び、ボタンを押す。

② ▲▼で[消去]を選択し、ボタンを押す。

画像データに印刷設定を記録する[プリント予約]

プリント予約

- 「プリント予約(DPOF)」(p. 48)
- プリント予約はカードに記録された静止画だけに設定できます。

カメラの設定に関連するメニュー

撮影トップメニュー、再生トップメニューから設定します。

データを完全に消去する [内蔵メモリ初期化] ／ [カード初期化]

設定 ▶ 内蔵メモリ初期化／カード初期化

- 初期化の前には、大切なデータが記録されていないことを確認してください。
- 当社製以外のカードやパソコンで初期化したカードは、必ずこのカメラで初期化してからお使いください。

サブメニュー 2	用途
する	内蔵メモリ[*1]またはカードの画像データ(プロテクトをかけた画像を含む)を完全に消去する。
しない	初期化をキャンセルする。

*1 内蔵メモリを初期化するときは、カードを取り出しておいてください。

内蔵メモリからカードへ画像をコピーする [データコピー]

設定 ▶ データコピー

サブメニュー 2	用途
する	内蔵メモリの画像データをカードにコピーする。
しない	コピーをキャンセルする。

- データコピーは時間がかかります。データコピーの際には十分に残量がある電池、またはACアダプタをお使いください。

表示言語を切り替える [言語]

設定 ▶ 言語

- 「表示言語を切り替える」(p. 17)

サブメニュー 2	用途
日本語／ENGLISH	液晶モニタに表示されるメニューやエラーメッセージの言語を選ぶ。

- OLYMPUS Master 2を使って、表示する言語を増やすことができます。詳しくはOLYMPUS Master 2のヘルプをご覧ください。

撮影/再生ボタンで電源を入れる [撮影/再生]

設定 ▶ 撮影/再生

サブメニュー 2	用途
起動する	撮影ボタンを押すと電源が入り、撮影モードで起動する(撮影するときは、レンズバリアを開けます)。 再生ボタンを押すと電源が入り、再生モードで起動する。
起動しない	撮影、再生ボタンを押しても電源は入らない。電源を入れるときはレンズバリアを開ける。

電源を切る直前の撮影モードを保持する [撮影モード保持]

設定 ▶ 撮影モード保持

サブメニュー 2	用途
する	電源を切ったときの撮影モードを記憶し、次に電源を入れると、その撮影モードになる。
しない	電源を入れると、撮影モードは**P**モードになる。

電源を入れたときの表示画面と電子音を設定する［PW ON設定］

設定 ▶ PW ON設定

サブメニュー2	サブメニュー3	用途
画面	OFF	表示しない。
	1	あらかじめ登録されている画像*を起動時に表示する。
	2	内蔵メモリ／カードに記録された静止画を登録して起動時に表示する。（設定画面に進む）
音量	OFF（電子音なし）／小／大	起動時に鳴る電子音量を選ぶ。

* この画像は変更できません。

起動画面を登録するには

① ［画面］のサブメニュー3で［2］を選ぶ。
② ◀▶ で登録する画像を選び、OK/FUNCボタンを押す。

メニュー画面の色や背景を選ぶ［メニュー色設定］

設定 ▶ メニュー色設定

サブメニュー2	用途
標準／カラー1／カラー2／カラー3	好みに合わせてメニュー画面の色や背景を選ぶ。

カメラの電子音を選ぶ・音量を調節する［音設定］

設定 ▶ 音設定

サブメニュー2	サブメニュー3	サブメニュー4	用途
操作音	種類	1／2	（シャッターボタンを除く）ボタンの操作音と音量を選ぶ。
	音量	OFF（無音）／小／大	
シャッター音	種類	1／2／3	シャッターを切るときの音と音量を選ぶ。
	音量	OFF（無音）／小／大	
警告音	OFF（無音）／小／大	—	警告音の音量を調節する。
再生音量	OFF（無音）、1～5の段階に調整する	—	画像の再生音量を調節する。

［消音モード］（p. 44）では電子音を一括して鳴らさないように設定できます。

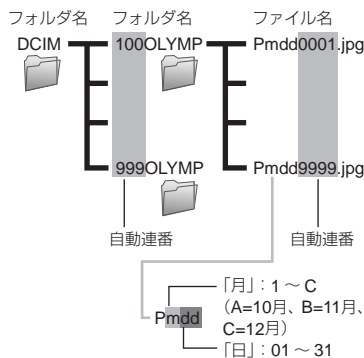
撮影直後に画像を確認する[撮影確認]

設定 ▶ 撮影確認

サブメニュー2	用途
OFF	撮影後、液晶モニタで被写体を追いながら次の撮影に備える(撮影した画像を記録中に表示しない)。
ON	撮影後、撮影した画像の簡単なチェックをする(撮影した画像を記録中に表示する)。

[ON]のときでも、表示中に次の撮影に入ることができます。

画像ファイル名の連番をリセットする[ファイル名メモリー]

設定 ▶ ファイル名メモリー

サブメニュー2	用途
リセット	カードを入れ替えたとき、フォルダ名とファイル名の連番をリセットする[*1] (カード別に画像を管理するときに便利です)。
オート	カードを入れ替えても、フォルダ名とファイル名の連番を前のカードから継続する(すべての画像のフォルダ名とファイル名を通し番号で管理するのに便利です)。

[*1] フォルダ名の連番は「100」、ファイル名の連番は「0001」に戻ります。

CCDと画像処理機能を調整する[ピクセルマッピング]

設定 ▶ ピクセルマッピング

この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに調整する必要はありません。調整は、年に一度を目安として行ってください。

最適な効果を得るため、撮影・再生直後より約1分以上時間を置いて実行してください。処理中にカメラの電源を切ってしまったときは、必ずもう一度実行してください。

CCDと画像処理機能を調整するには

[スタート](サブメニュー 2)表示中にOK/FUNCボタンを押す。

- カメラがCCDと画像処理機能のチェックと調整を同時に行います。

液晶モニタの明るさを調整する[モニタ調整]

設定 ▶ モニタ調整

液晶モニタの明るさを調整するには

① 画面を見ながら▲▼で明るさを調整し、OK/FUNCボタンを押す。

日付・時刻を設定する[日時設定]

設定 ▶ 日時設定

「日時を設定する」(p. 17)

日時の表示順序を選ぶには

① 「分」の設定後に▶を押し、▲▼で日時の表示順序を選ぶ。

時差をつけて日時を設定する[デュアルタイム]

設定 ▶ デュアルタイム

[デュアルタイム]を[ON]にして設定した日時は、画像ファイル名、日付プリントなどに反映されます。

サブメニュー2	サブメニュー3	用途
OFF	—	[日時設定]で設定した日時に切り換える。
ON	(設定画面[*1]に進む)	時差のある地域で使用する際、[日時設定]で設定した日時のほかにもう一つの日時を設定し、切り替えをする。

[*1] 「日時を設定する」(p. 17)と同じ手順で設定します。

「日付の順序」を変更することはできません。

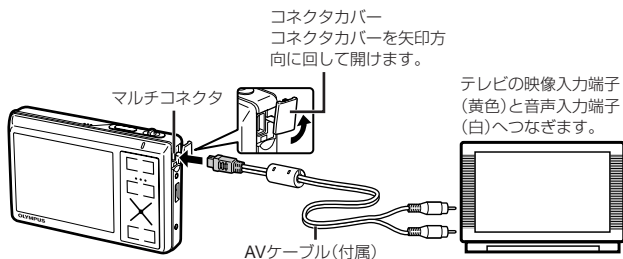
テレビに合わせて映像信号方式を選ぶ［ビデオ出力］

設定 ▶ ビデオ出力

国と地域により、テレビの映像信号方式は異なります。テレビでカメラの画像を再生する前に、接続するテレビの映像信号方式と同じ方式を選びます。

サブメニュー 2	用途
NTSC	日本、北米、台湾、韓国などでカメラをテレビに接続して再生する。
PAL	ヨーロッパ諸国、中国などでカメラをテレビに接続して再生する。

カメラの画像をテレビで再生するには

① テレビとカメラを接続する。

② カメラで、接続するテレビの映像信号方式と同じ方式を選ぶ（［NTSC］／［PAL］）。

③ テレビの電源を入れて「入力」を「ビデオ（カメラを接続した入力端子）」に切り替える。

テレビの入力切り替えについては、テレビの取扱説明書をご覧ください。

④ ▶ボタンを押して、▲▼◀▶で再生する画像を選ぶ。

テレビの設定によっては、画像や情報表示の一部が欠けて見えることがあります。

使わないときに電池の消費を抑える［節電モード］

設定 ▶ 節電モード

サブメニュー 2	用途
OFF	［節電モード］を解除する。
ON	撮影中に約10秒間カメラを操作しないとき、液晶モニタを自動的に消すなどして電池の消費を抑える。

節電モードから復帰するには

いずれかのボタン、ズームレバーを操作します。

カメラの電子音を鳴らさない［消音モード］

消音モード

サブメニュー 1	用途
OFF	［音設定］で個別に設定した電子音・音量になる。
ON	電子音（操作音、シャッター音、警告音）、再生音を鳴らさない。

［音設定］（p. 41）

プリントする

ダイレクトプリント（PictBridge[*1]）

PictBridge対応プリンタにカメラを接続して、撮影した画像を直接プリントすることができます。
お使いのプリンタがPictBridgeに対応しているかどうかは、プリンタの取扱説明書でご確認ください。

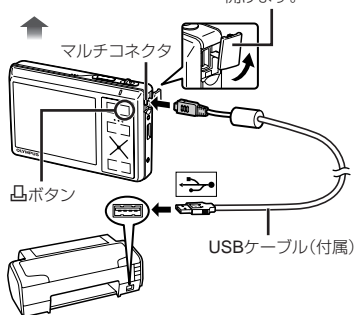
[*1] PictBridgeとは、異なるメーカーのプリンタとデジタルカメラを接続し、画像を直接プリントすることを目的とした規格です。

- このカメラで設定できるプリントモード、用紙サイズなどの設定項目は、お使いのプリンタによって異なります。プリンタの取扱説明書でご確認ください。
- プリントできる用紙の種類、用紙やインクカセットの取り付け方は、お使いのプリンタの取扱説明書でご確認ください。

プリンタの標準設定で画像をプリントする[かんたんプリント]

1 プリントする画像を液晶モニタに表示する。

- 「撮った画像を再生する」（p. 19）
- 電源オフの状態からもプリントをはじめることができます。手順2の後、▲▼で[かんたんプリント]を選んでOK/FUNCボタンを押し、◀▶で画像を選んでから手順3へ進みます。

2 プリンタの電源を入れてから、プリンタとカメラを接続する。

3 ⎙ボタンを押してプリントをはじめる。

4 続けてプリントするときは、◀▶で画像を選び、⎙ボタンを押す。

プリントを終了するには

画像選択の画面が表示された状態でカメラとプリンタからUSBケーブルを抜きます。

プリンタの設定を変えてプリントする[カスタムプリント]

1 [かんたんプリント]（p. 45）の手順1、2を行い、OK/FUNCボタンを押す。

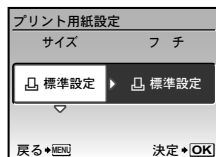
2 ▲▼で[カスタムプリント]を選び、OK/FUNCボタンを押す。

3 ▲▼でプリントモードを選び、OK/FUNCボタンを押す。

サブメニュー2	用途
プリント	手順6で選択する画像をプリントする。
全コマプリント	内蔵メモリ／カード中の全画像をプリントする。
マルチプリント	1枚の用紙に同じ画像を複数レイアウトしてプリントする。
全コマインデックス	内蔵メモリ／カード中の全画像をインデックス（一覧）形式でプリントする。
予約プリント[*1]	プリント予約の内容にしたがってプリントする。

[*1] プリント予約された画像がないときは、[予約プリント]は選択できません。「プリント予約（DPOF）」（p. 48）

4 ▲▼で[サイズ]（サブメニュー3）を選び、▶を押す。

[プリント用紙設定]画面が表示されないときは、[サイズ]と[フチ]／[分割数]はプリンタに固有の標準設定でプリントされます。

5 ▲▼で[フチ]／[分割数]の設定を選び、OK/FUNCボタンを押す。

サブメニュー4（フチ／分割数）	用途
有り／無し[*1]	用紙の周辺に余白をつけてプリントする（有り）。 用紙いっぱいにプリントする（無し）。
（分割数はプリンタにより異なる）	手順3で[マルチプリント]を選んだときのみ、分割数を選ぶ。

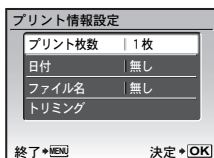
[*1] 選択できる[フチ]の設定はプリンタによって異なります。

手順4、5で[標準設定]を選択すると、プリンタに固有の標準設定でプリントされます。

6 ◀▶で画像を選ぶ。

7 表示している画像を[1枚予約]するときは、凸ボタンを押す。
表示している画像の詳細設定を行うときは、▼を押す。

詳細設定を行うには

① ▲▼◀▶で設定を行い、OK/FUNCボタンを押す。

サブメニュー5	サブメニュー6	用途
プリント枚数	0～10	プリントする画像の枚数を選ぶ。
日付	有り／無し	画像に日付をプリントする(有り)。画像に日付をプリントしない(無し)。
ファイル名	有り／無し	画像にファイル名をプリントする(有り)。画像にファイル名をプリントしない(無し)。
トリミング	(設定画面に進む)	画像の一部を選んでプリントする。

画像の一部を切り出すには(トリミング)

① ズームレバーでトリミング枠の大きさを選び、▲▼◀▶で枠を移動した後、OK/FUNCボタンを押す。

② ▲▼で[決定]を選びOK/FUNCボタンを押す。

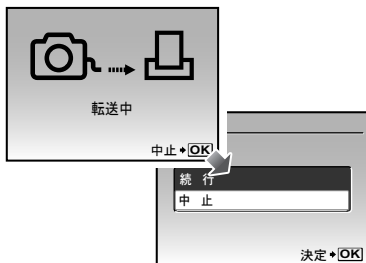
8 必要に応じ手順6～7を繰り返して、プリントする画像の選択、詳細設定、[1枚予約]をする。

9 OK/FUNCボタンを押す。

10 ▲▼で[プリント]を選び、OK/FUNCボタンを押す。

- 画像のプリントがはじまります。
- 全コマプリントモードの場合、[オプション設定]を選択すると、[プリント情報設定]画面が表示されます。
- プリントが終了すると、[プリントモード選択]画面が表示されます。

プリントを中止するには

① [転送中]の表示中にOK/FUNCボタンを押す。
② ▲▼で[中止]を選び、OK/FUNCボタンを押す。

11 MENUボタンを押す。

12 [USBケーブルを抜いてください]が表示されてから、カメラとプリンタからUSBケーブルを抜く。

プリント予約(DPOF[*1])

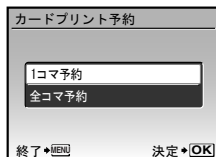
プリント予約とは、カード内の画像にプリントする枚数や日付を印刷する指定を記憶させることです。パソコンやカメラがなくても、プリント予約したカードだけで、DPOF対応のプリンタやDPOF対応のプリントショップで簡単にプリントすることができます。

[*1] DPOFとは、デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するための規格です。

- プリント予約は、カードに記録された画像にのみ設定することができます。あらかじめ画像が記録されているカードをカメラに入れてからプリント予約をしてください。
- 他のDPOF機器で設定したDPOF予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。また、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、他の機器で予約した内容は消去されます。
- DPOF予約で予約できる枚数は、1枚のカードにつき999画像です。

1コマずつプリント予約する [1コマ予約]

1 ▶ボタンを押した後、MENUボタンを押してトップメニューを表示する。

2 ▲▼◀▶で[プリント予約]を選び、OK/FUNCボタンを押す。

3 ▲▼で[1コマ予約]を選び、OK/FUNCボタンを押す。

4 ◀▶で予約する画像を、▲▼で予約する枚数を選び、OK/FUNCボタンを押す。

5 ▲▼で[日時プリント]画面での設定を選び、OK/FUNCボタンを押す。

サブメニュー2	用途
無し	画像のみをプリントする。
日付	画像と撮影年月日をプリントする。
時刻	画像と撮影時刻をプリントする。

6 ▲▼で[予約する]を選び、OK/FUNCボタンを押す。

カード内の画像を全て1枚ずつプリント予約する[全コマ予約]

1 [1コマ予約](p. 48)の手順1、2を行う。

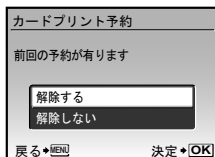
2 ▲▼で[全コマ予約]を選び、OK/FUNCボタンを押す。

3 [1コマ予約]の手順5、6を行う。

すべてのプリント予約を解除する

1 ▶ボタンを押した後、**MENU**ボタンを押してトップメニューを表示する。

2 ▲▼◀▶で[プリント予約]を選び、OK/FUNCボタンを押す。

3 ▲▼で[1コマ予約]、[全コマ予約]のいずれかを選び、OK/FUNCボタンを押す。

4 ▲▼で[解除する]を選び、OK/FUNCボタンを押す。

1コマずつプリント予約を解除する

1 「すべてのプリント予約を解除する」(p. 49)の手順1、2を行う。

2 ▲▼で[1コマ予約]を選び、OK/FUNCボタンを押す。

3 ▲▼で[解除しない]を選び、OK/FUNCボタンを押す。

4 ◀▶で予約を解除する画像を選び、▲▼で予約する枚数を「0」にする。

5 必要に応じて手順4を繰り返し、最後にOK/FUNCボタンを押す。

6 ▲▼で[日時プリント]の設定を選び、OK/FUNCボタンを押す。

- プリント予約の設定が残っている画像に、選択した設定が適用されます。

7 ▲▼で[予約する]を選び、OK/FUNCボタンを押す。

付属のOLYMPUS Master 2を使う

OLYMPUS Master 2の動作環境とインストール

同梱のインストールガイドにしたがいインストールしてください。

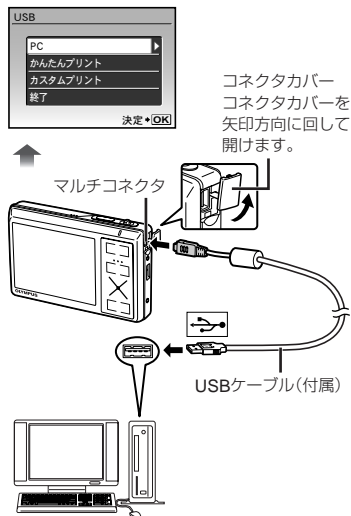
カメラをパソコンに接続する

1 カメラの電源が切れていることを確認する

- 液晶モニタが消灯している
- レンズバリアが閉じている

2 カメラをパソコンに接続する。

- 自動的にカメラの電源が入ります。

コネクタカバー
コネクタカバーを矢印方向に回して開けます。

接続するUSBポートの位置は、お使いのパソコンの取扱説明書でご確認ください。

3 ▲▼で[PC]を選び、OK/FUNCボタンを押す。

- はじめて接続するときは、パソコンがカメラを新しい機器として自動的に認識します。

Windowsの場合

カメラがパソコンに認識され、設定終了のメッセージが表示されたら、「OK」ボタンをクリックして終了してください。カメラは「リムーバブルディスク」として認識されます。

Macintoshの場合

通常iPhotoが起動します。iPhotoを終了してからOLYMPUS Master 2を起動してください。

パソコンと接続している間、カメラ機能は一切動作しません。

USBハブ経由でカメラを接続すると、動作が不安定になることがあります。USBハブは使わないでください。

手順3で[PC]を選択後、▶を押して表示されるサブメニューで[MTP]を選択すると、OLYMPUS Master 2を使ってパソコンへ画像を転送できなくなります。

OLYMPUS Master 2を起動する

① 「OLYMPUS Master 2」アイコンをダブルクリックする。

Windowsの場合

はデスクトップに表示されています。

Macintoshの場合

は「OLYMPUS Master 2」フォルダ内に表示されています。

- 起動するとブラウズウィンドウが表示されます。

インストール後にはじめて起動すると、OLYMPUS Master 2の初期設定画面とユーザー登録画面が表示されます。画面の案内にしたがって操作してください。

OLYMPUS Master 2を使う

OLYMPUS Master 2を起動するとクイックスタートガイドが表示されます。ガイドにしたがうと迷わず操作できます。
クイックスタートガイドが表示されていないときは、ツールバーの をクリックして表示します。

詳しい使いかたはヘルプをご覧ください。

OLYMPUS Master 2を使わずに画像をパソコンに取り込み保存する

このカメラはUSBストレージクラスに対応しています。お使いのパソコンにインストールされているアプリケーションで、画像データを扱うこともできます。

動作環境

Windows ： Windows 2000 Professional/
XP Home Edition/
XP Professional/Vista
Macintosh ： Mac OS X v10.3以降

Windows Vistaをお使いの場合、「カメラをパソコンに接続する」(p. 50)の手順3で[PC]を選択後、▶を押して表示されるサブメニューで[MTP]を選択すると、Windowsフォト ギャラリーが使えるようになります。

USBポートのあるパソコンでも、以下の環境では正常な動作は保証されません。

- 拡張カードなどでUSBポートを増設したパソコン
- 工場出荷時にOSがインストールされていないパソコン、および自作パソコン

使い方のヒント

思い通りに操作できない、画面にメッセージが表示されるがどうして良いかわからないときは、以下を参考にしてください。

故障かな？と思ったら

電池

「電池を入れてもカメラが動かない」

- 充電された電池を正しい向きで入れる。
  「電池を充電する」（p. 14）、「電池とxD-ピクチャーカード™（別売）を入れる」（p. 15）
- 寒さのため一時的に電池の性能が低下していることがあります。カメラから電池を一度取り出し、ポケットに入れるなどして少し温めます。

カード・内蔵メモリ

「メッセージが表示される」

「エラーメッセージ」（p. 53）

シャッターボタン

「撮影できない」

- レンズバリアを開ける。
- スリープモードを解除する。
  カメラは電源オンの状態で、何も操作しないと3分後にスリープモードと呼ばれる省電力状態に入り、液晶モニタは自動的に消灯します。この状態でシャッターボタンを全押ししても撮影できません。ズームレバーやその他のボタンを操作して、カメラをスリープモードから復帰させてから撮影しましょう。さらに12分放置すると、カメラは電源オフの状態になります。一度レンズバリアを閉じてから、再度レンズバリアを開けて電源を入れてください。
- ⚡（フラッシュ充電）アイコンの点滅が消えるのを待って撮影する。

- 長時間使用し、カメラの内部温度が上がると、自動的に動作を停止するときがあります。電池を取り出し、カメラが冷えるまで待ちます。また、使用中にカメラの外側の温度も上がりますが、故障ではありません。

液晶モニタ

「見にくい」

- 結露[*1]が起こっている可能性があるので、電源を切り、カメラ全体がまわりの温度になじんで乾燥するのを待ってから撮影する。
  [*1] 寒いところから急に暖かく湿った部屋などに入れたときに露ができること。

「画面に縦スジが入る」

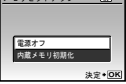
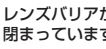
- 晴天下など、非常に明るい被写体にカメラを向けると画面に縦スジが入る場合があります。撮影した静止画にはスジは写りません。

「撮影した画像に光が写っている」

- 夜間にフラッシュを発光させて撮影すると、空気中のほこりなどに光が反射して、画像に写りこむことがあります。

日時機能

「設定した日時が元に戻った」

- 電池を抜いた状態で約3日間[*2]放置すると、日時の設定は初期設定に戻ります。設定し直します。
  [*2] 初期設定に戻るまでの時間は、電池を入れ替えてからの時間によって異なります。
  「日時を設定する」（p. 17）

その他

「撮影時にカメラ内部から音がする」

- 撮影可能状態ではオートフォーカス動作を行っているため、カメラを操作しなくてもレンズを動かしている音がすることがあります。

エラーメッセージ

液晶モニタに以下のメッセージが表示されたときは、以下の内容を確認してください。

エラーメッセージ	問題を解決するには
このカードは使用できません	**カードの問題** 新しいカードを入れます。
書き込み禁止になっています	**カードの問題** パソコンを使って、読み取り専用の設定を解除します。
撮影可能枚数が0です	**内蔵メモリの問題** • カードを入れます。 • 不要な画像を消去します。[*1]
内蔵メモリに残量がありません	
撮影可能枚数が0です	**カードの問題** • カードを交換します。 • 不要な画像を消去します。[*1]
カード残量がありません	
カードセットアップ カードを拭く カード初期化 決定 OK	**カードの問題** • ▲▼で[カードを拭く]を選び、OK/FUNCボタンを押します。カードを抜いて乾いた柔らかい布でコンタクトエリア(p. 57)を乾拭きしてから戻します。 • ▲▼で[カード初期化]を選び、OK/FUNCボタンを押します。続けて▲▼で[する]を選び、OK/FUNCボタンを押します。[*2]
メモリセットアップ 電源オフ 内蔵メモリ初期化 決定 OK	**内蔵メモリの問題** ▲▼で[内蔵メモリ初期化]を選び、OK/FUNCボタンを押します。続けて▲▼で[する]を選び、OK/FUNCボタンを押します。[*2]
画像が記録されていません	**内蔵メモリ／カードの問題** 撮影してから再生します。
この画像は再生できません	**選んだ画像の問題** 画像ソフトなどを使いパソコンで再生します。それでも再生できないときは、画像ファイルの一部が壊れています。
この画像は編集できません	**選んだ画像の問題** 画像ソフトなどを使いパソコンで編集します。
カードカバーが開いています	**操作上の問題** 電池／カードカバーを閉めます。
レンズバリアが閉まっています	**操作上の問題** 撮影時はレンズバリアを開けます。
電池残量がありません	**電池の問題** 電池を充電します。
接続されていません	**接続の問題** カメラとパソコンまたはプリンタを正しく接続します。
用紙がありません	**プリンタの問題** プリンタに用紙を補充します。
インクがありません	**プリンタの問題** プリンタにインクを補充します。
紙づまりです	**プリンタの問題** 紙づまりを解消します。
プリンタの設定が変更されました[*3]	**プリンタの問題** プリンタを使用できる状態に戻します。
プリンタエラーです	**プリンタの問題** カメラとプリンタの電源を切り、プリンタの状態を確認してからもう一度電源を入れ直します。
この画像はプリントできません[*4]	**選んだ画像の問題** パソコンなどを使いプリントします。

[*1] 大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
[*2] データはすべて消去されます。
[*3] プリンタ側で用紙カセットを取り出すなどの操作をすると表示されます。プリントの設定中は、プリンタの操作をしないでください。
[*4] 他のカメラで撮影した画像などでは、プリントできないものがあります。

撮影のヒント

イメージした通りに写真を撮るための撮影方法がわからないときは、以下を参考にしてください。

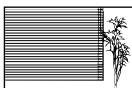
ピント

「狙ったものにピントを合わせたい」

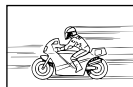
- **画面の中心以外にある被写体を撮る**
  被写体と同じ距離にあるものにピントを合わせたあと、構図を決めて撮影します。
  半押し（p. 18）
- **［AF方式］（p. 31）を［iESP］にする**
- **オートフォーカスが苦手な被写体を撮る**
  以下のときは、被写体と同じ距離にあるコントラストのはっきりとしたものにピントを合わせたあと（シャッターボタン半押し）、構図を決めて撮影します。

コントラストがはっきりしない被写体

画面中央に極端に明るいものがあるとき

縦線のない被写体[*1]

[*1] カメラを縦位置に構えてピントを合わせてから、横位置に戻して撮影するのも効果的です。

遠い被写体と近いものが混在するとき

動きの速い被写体

ピントを合わせたいものが中央にない

手ぶれ

「ぶれない写真を撮りたい」

- **モード（p. 20）、［電子手ぶれ補正］（p. 32）を使って撮る**
- **高いISO感度で撮る**
  高いISO感度を選ぶと、フラッシュを使えない場所でも速いシャッター速度で撮影できます。
  ［ISO感度］（p. 30）
- **撮影シーンを［スポーツ］にする**
  ［スポーツ］を選ぶと、速いシャッター速度で撮影できるので、被写体ぶれにも有効です。
- **ぶれた画像は、あとから［電子手ぶれ補正］（p. 35）をする**

露出(明るさ)

「イメージ通りの明るさで撮りたい」

- **逆光の被写体を撮る**
  逆光でも顔を明るく撮れます。
  [顔検出パーフェクトショット](p. 26、32)
- **[顔検出](p. 31)AFで撮る**
  逆光でも露出が顔に合い、明るく撮れます。
- **[スポット](p. 31)測光で撮る**
  画面中央の被写体に明るさを合せて撮影するので、背景の光に影響されません。
- **[強制発光](p. 23)フラッシュで撮る**
  逆光でも被写体が暗くならずに撮れます。
- **白い砂浜・雪景色をきれいに撮る**
  SCNモードの[ビーチ&スノー]で撮影します。(p. 20)
- **露出補正(p. 23)して撮る**
  画面を確認しながら明るさを調節して写します。通常、白い被写体(雪など)を撮影すると実際より暗く写ってしまいますが、ボタンでプラスに補正すると見たままの白を表現することができます。黒い被写体を撮影するときは、逆にマイナスに補正すると効果的です。

色合い

「見た目と同じ色で撮りたい」

- **[ホワイトバランス](p. 30)を選んで撮る**
  通常は[オート]でほとんどの環境をカバーしますが、被写体の条件によっては設定を変えて試してみるほうが良いことがあります(晴天下の日陰や、自然光と照明光が混ざってあたるとき、など)。

画質

「きめ細かい写真を撮りたい」

- **光学ズームで撮る**
  [デジタルズーム](p. 31)を使わないで撮影します。
- **低いISO感度で撮る**
  [ISO感度]を高くすると、ノイズ(本来そこにはないはずの色の小さな点や色むら)が発生し、画像が粗く見えます。
  [ISO感度](p. 30)

パノラマ

「コマがきれいにつながるように撮りたい」

- **パノラマ撮影時のヒント**
  カメラを中心に回転させて撮影すると画像のずれが発生しにくくなります。特に近いものを撮影するときはレンズの先端を中心に回転させるとよい結果が得られます。

電池

「電池を長持ちさせたい」

- **以下の操作は実際に撮影しなくても、電池を消耗するので、なるべく避ける。**
  - シャッターボタンの半押しを繰り返す
  - ズーム操作を繰り返す
- **[節電モード](p. 44)を[ON]にする。**

再生・編集のヒント

再生

「内蔵メモリ/カード内の画像を再生したい」

- **内蔵メモリ内の画像を再生するときは、カードを抜く**
  - 「電池とxD-ピクチャーカード™(別売)を入れる」(p. 15)
  - 「microSDカード/ microSDHCカード(別売)を使う」(p. 16)

編集

「静止画に録音済みの音声を消したい」

- **画像の再生時に、静かなところ(無音状態)で追加録音をする**
  [録音](p. 38)

資料

アフターサービス

- 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。
- 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。
- 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。
- 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社で保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、当社修理センター、またはサービスステーションにお問い合わせください。
- 海外で故障・不具合が生じた場合は、オリンパス代理店リストに記載のⓌマークが付いた販売店・サービスステーションまでご依頼ください。
- 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。
- 修理品をご送付の場合は、修理箇所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

お手入れ

カメラの外側

- 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、固く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を固く絞って拭き取ります。

液晶モニタ

- 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ

- レンズブロワー（市販）でほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

電池／充電器

- 乾いた柔らかい布で拭きます。

  ❗ 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。

  ❗ レンズを汚れたままにしておくと、カビが生えることがあります。

カメラの保管

- カメラを長期間使用しないときは、電池やACアダプタ、カードを取り外してから風通しがよく涼しい乾燥した場所に保管してください。
- 保管期間中でも、ときどき電池を入れてカメラの動作を確かめてください。

  ❗ 薬品を扱うような場所での保管は腐食などの原因になるため避けてください。

電池／充電器について

- 電池は、当社製リチウムイオン電池（LI-42B/LI-40B）1個を使用します。それ以外の電池は使用できません。

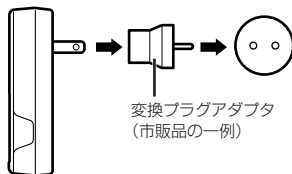
  ❗ 注意：
  指定以外の電池を使用した場合、爆発（または破裂）の危険があります。使用済み電池は取扱説明書の「電池について」（p. 62）に従って廃棄してください。
- カメラの消費電力は、使用条件などにより大きく異なります。
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を多く消費するため、電池の消費が早くなります。
  - ズーム動作を繰り返す。
  - 撮影モードでシャッターボタンを半押しして、オートフォーカス動作を繰り返す。
  - 長時間、液晶モニタで画像を表示する。
  - パソコンやプリンタとの接続時。

- 消耗した電池をお使いのときは、電池残量警告が表示されずにカメラの電源が切れることがあります。
- ご購入の際、充電池は十分に充電されていません。ご使用の前に専用の充電器（LI-41C/LI-40C）で充電を行ってください。
- 付属の充電池の充電時間は通常約2時間（目安）です（使用状況により異なります）。
- 付属の充電器LI-41Cは、充電池LI-42B/LI-40B専用です。
  付属の充電器で、専用電池以外の電池は充電しないでください。
  破裂、液漏れ、発熱、発火の原因となります。
- プラグインタイプの充電器について：
  付属の充電器（LI-41C）は垂直、または床に水平に正しく据え付けてください。

ACアダプタを使う

長時間スライドショーを行う、パソコンに画像をダウンロードするなど、時間がかかる作業を行なう場合には、ACアダプタ（D-7AC ／別売）の使用をおすすめします。このカメラでACアダプタを使うには、マルチアダプタ（CB-MA1 ／別売）が必要です。専用のACアダプタ以外はご使用にならないでください。

海外での使用について

- 充電器とACアダプタは、世界中のほとんどの家庭用電源AC100 ～ 240V（50/60Hz）でご使用になれます。ただし、国や地域によっては、電源コンセントの形状が異なるため、変換プラグアダプタ（市販）が必要になる場合があります。

  詳しくは、電気店や旅行代理店でご確認ください。
- 市販の海外旅行用電子変圧器（トラベルコンバーター）は、充電器とACアダプタが故障することがありますので使用しないでください。

xD-ピクチャーカード（カード）を使う

カード（および内蔵メモリ）は、撮影画像を記録するためのフィルムにあたるものです。記録された画像（データ）は、削除やパソコンでの加工を自由にできます。内蔵メモリはカメラから取り出したり、交換することができませんが、カードはカメラから取り出したり、交換することができます。また容量の大きなカードを使用すると、記録できる枚数を増やすことができます。

コンタクトエリアには直接手を触れないでください。

このカメラで使用できるカード

xD-ピクチャーカード（16MB ～ 2GB）
(TypeH/M/M+, Standard)

新しいカードを使うときには

当社製以外のカードを使うときや、パソコンなどで他の用途に使用したカードを使うときは、［内蔵メモリ初期化］／［カード初期化］（p. 40）でカードを初期化します。

画像の保存先を確認する

内蔵メモリまたはカードのどちらを使用して撮影・再生しているか、液晶モニタで確認できます。

使用メモリ表示
INのとき：内蔵メモリ使用
表示なしのとき：カード使用

! ［内蔵メモリ初期化］／［カード初期化］や［1コマ消去］、［選択消去］、［全コマ消去］を行っても、カード内のデータは完全には消去されません。廃棄する際は、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

カードの読み出し／書き込み動作

カードアクセスランプの点滅中はデータの読み出し／書き込みが行われています。絶対に電池／カードカバーを開けたり、USBケーブルを抜いたりしないでください。撮影した画像が破壊されるだけでなく、内蔵メモリまたはカードが使用できなくなることがあります。

内蔵メモリとxD-ピクチャーカードの撮影可能枚数（静止画）／連続撮影可能時間（ムービー）

静止画

画像サイズ	圧縮モード	撮影可能枚数			
		内蔵メモリ		xD-ピクチャーカード（1GBの場合）	
		音声あり	音声なし	音声あり	音声なし
12M 3968×2976	FINE	7枚	7枚	170枚	171枚
	NORM	14枚	14枚	329枚	329枚
5M 2560×1920	FINE	18枚	18枚	410枚	415枚
	NORM	34枚	35枚	789枚	809枚
3M 2048×1536	FINE	28枚	28枚	633枚	646枚
	NORM	53枚	55枚	1,206枚	1,254枚
2M 1600×1200	FINE	44枚	46枚	1,015枚	1,048枚
	NORM	83枚	88枚	1,881枚	1,998枚
1M 1280×960	FINE	64枚	67枚	1,453枚	1,522枚
	NORM	113枚	122枚	2,558枚	2,781枚
VGA 640×480	FINE	202枚	235枚	4,568枚	5,330枚
	NORM	314枚	404枚	7,107枚	9,137枚
16:9 1920×1080	FINE	41枚	42枚	940枚	969枚
	NORM	78枚	83枚	1,776枚	1,881枚

ムービー

画像サイズ	フレームレート	連続撮影可能時間	
		内蔵メモリ	xD-ピクチャーカード（1GBの場合）
		音声あり	音声あり
VGA 640×480	30	24秒	9分25秒*
	15	49秒	18分44秒
QVGA 320×240	30	1分7秒	25分26秒
	15	2分12秒	50分7秒

- カードの容量に関わらず、1度に記録できるムービーの最大ファイルサイズは2GBまでになります。

* xD-ピクチャーカード TypeMまたはStandard使用時は、最長40秒になります。

撮影枚数を増やすには

不要な画像を消去するか、カメラをパソコンなどに接続して画像を保存してから、内蔵メモリ／カードの画像を消去します。［1コマ消去］（p. 19）、［選択消去］（p. 39）、［全コマ消去］（p. 39）、［内蔵メモリ初期化］／［カード初期化］（p. 40）

microSDアタッチメントを使う

- 対応機種以外のオリンパスデジタルカメラ、他社デジタルカメラ、パソコン、プリンタ、その他xD-ピクチャーカードが使用できる機器には、絶対にアタッチメントを使用しないでください。撮影した画像が壊れるだけでなく、機器の故障の原因となります。
- microSDカードが取り外せない場合は、無理に取り出さず、当社修理センター、またはサービスセンターにご相談ください。

このカメラで使用できるカード

microSDカード／ microSDHCカード

- 動作確認済みのmicroSDカードについては、オリンパスホームページ（http://www.olympus.co.jp/）でご確認ください。

撮影した画像のデータ転送方法

パソコンやプリンタへは、カメラに付属のUSBケーブルで撮影した画像を転送することができます。それ以外の機器へは、カメラからmicroSDアタッチメントを外し、市販のmicroSDカード専用アダプターをご使用ください。

取り扱いについて

microSDアタッチメントおよびmicroSDカードのコンタクトエリアには直接手を触れないでください。画像が読み込めない原因となります。指紋・汚れ等が付いたときは、乾いた柔らかい布でコンタクトエリアを乾拭きしてください。

安全にお使いいただくために

ご使用の前に、この内容をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

ここに示した注意事項は、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。
警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警告

- **可燃性ガス、爆発性ガス等が大気中に存在するおそれのある場所では使用しない**
  引火・爆発の原因となります。
- **フラッシュやLEDを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光させない**
- **カメラで日光や強い光を見ない**
  視力障害をきたすおそれがあります。
- **幼児、子供の手の届く場所に放置しない**
  以下のような事故が発生するおそれがあります。
  - 誤ってストラップを首に巻きつけ、窒息を起こす。
  - 電池などの小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。
  - 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
  - カメラの動作部でけがをする。
- **ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で長時間使用したり、保管しない**
  火災・感電の原因となります。
- **フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない**
- **連続発光後、発光部分に手を触れない**
  やけどのおそれがあります。
- **分解や改造をしない**
  感電・けがをするおそれがあります。
- **内部に水や異物を入れない**
  火災・感電の原因となります。
  万一水に落としたり、内部に水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り電池を抜き、販売店、当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
- **通電中の充電器、充電中の電池に長時間触れない**
  充電中の充電器や電池は、温度が高くなります。また別売のACアダプタを長時間ご使用の場合にも、本体の温度が高くなります。長時間皮膚が触れていると、低温やけどのおそれがあります。
- **専用の当社製リチウムイオン電池と充電器以外は使用しない**
  発熱、変形などにより、火災・感電の原因となります。またカメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。専用品以外の使用により生じた傷害は補償しかねますので、ご了承ください。
- **microSDカード以外は取り付けない**
  microSDアタッチメントには、その他のカードを取り付けることはできません。
- **xD-ピクチャーカードおよびmicroSDアタッチメント以外は、絶対にカメラに入れない**
  microSDカードなどその他のカードを誤って入れた場合は、無理に取り出さず、当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。

⚠ 注意

- **異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常を感じたときは使用を中止する**
  火災・やけどの原因となることがあります。
  やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店、当社修理センター、またはサービスステーションにご連絡ください。
  （電池を取り外す際は、素手で電池を触らないでください。また可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）
- **濡れた手でカメラを操作しない**
  故障・感電の原因となることがあります。また、ACアダプタの抜き差しは、濡れた手では絶対しないでください。

- **カメラをストラップで提げて持ち運んでいるときは、他のものに引っかからないように注意する**
  けがや事故の原因となることがあります。
- **高温になるところに放置しない**
  部品の劣化・火災の原因となることがあります。
- **専用のACアダプタ以外は使用しない**
  カメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故が起きる可能性があります。専用以外のACアダプタの使用により生じた傷害は補償しかねますので、あらかじめご了承ください。
- **ACアダプタのコードを傷つけない**
  ACアダプタのコードを引っ張ったり、継ぎ足したりは絶対にしないでください。必ず電源プラグを持って、抜き差しを行ってください。
  以下の場合はただちに使用を中止し、販売店、当社修理センターまたはサービスステーションにご相談ください。
  - 電源プラグのコードが熱い、焦げ臭い、煙が出ている。
  - ACアダプタのコードに傷、断線、または電源プラグに接触不良がある。

電池についてのご注意

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、以下の注意事項を必ずお守りください。

⚠ 危険

- **火の中に投下したり、加熱しない**
  発火・破裂・火災の原因となります。
- **(+)(−)端子を金属類で接続しない**
- **電池と金属製のネックレスやヘアピンを一緒に持ち運んだり、保管しない**
  ショート、発熱し、やけど・けがの原因となります。
- **直射日光のあたる場所、炎天下の車内、ストーブのそばなど高温になる場所で使用・放置しない**
  液漏れ、発熱、破裂などにより、火災・やけど・けがの原因となります。
- **直接ハンダ付けしたり、変形・改造・分解をしない**
  端子部安全弁の破壊や、内容物の飛散が生じ危険です。
  火災・破裂・発火・液漏れ・発熱・破損の原因となります。
- **電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み口等に直接接続しない**
  火災・破裂・発火・液漏れ・発熱・破損の原因となります。
- **電池の液が目に入った場合は失明のおそれがあるので、こすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い流したあと、直ちに医師の診断を受けてください。**

⚠ 警告

- **水や海水などにつけたり、端子部を濡らさない**
- **濡れた手で触ったり持ったりしない**
  感電・故障の原因となります。
- **所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を中止する**
  火災・破裂・発火・発熱の原因となります。
- **外装にキズや破損のある電池は使用しない**
  破裂・発熱の原因となります。
- **電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしない**
  破裂・液漏れの原因となります。
- **カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしない**
- **液漏れ、変色、変形、その他異常が発生した場合は、使用を中止する**
  火災・感電の原因となります。
  販売店または当社サービスステーションにご相談ください。
- **電池の液が皮膚・衣類へ付着すると、皮膚に傷害を起こすおそれがあるので、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。**

⚠ 注意

- **電池を使ってカメラを長時間連続使用したあとは、すぐに電池を取り出さない**
  やけどの原因となることがあります。
- **長期間使用しない場合は、カメラから電池を外しておく**
  液漏れ・発熱により、火災・けがの原因となることがあります。

充電器についてのご注意

⚠ 危険

- **充電器を濡らしたり、濡れた状態または濡れた手で触ったり持ったりしない**
  故障・感電の原因となります。
- **充電器を布などで覆った状態で使用しない**
  熱がこもってケースが変形したり、火災・発火・発熱の原因となります。

- **充電器を分解・改造しない**
  感電・けがの原因となります。
- **充電器は指定の電源電圧で使用する**
  指定以外の電源電圧を使用すると、火災・破裂・発煙・発熱・感電・やけどの原因となります。

⚠ 警告

- **コンセントからの抜き差しは、必ず充電器本体を持つ**
  充電器本体を持たないと、火災・感電の原因となることがあります。
  以下の場合はすぐに使用を中止し、販売店、当社修理センター、またはサービスステーションにご相談ください。
  - 充電器本体が熱い、焦げ臭い、煙が出ている。
  - 電源プラグに接触不良がある。

⚠ 注意

- **お手入れの際は、充電器本体をコンセントから抜いて行う**
  充電器本体を抜かないで行うと、感電・けがの原因となることがあります。

使用上のご注意

使用条件について

- 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。以下のような場所で長時間使用したり放置すると、動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
  - 直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど、高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
  - 砂、ほこり、ちりの多い場所
  - 火気のある場所
  - 水に濡れやすい場所
  - 激しい振動のある場所
- 海辺や砂地などでは水や砂がかからないようにしてください。傷や故障の原因になることがあります。
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けたまま撮影または放置しないでください。CCDの退色・焼きつきを起こすことがあります。
- 寒い戸外から暖かい室内に入るなど急激に温度が変わったときは、カメラ内部で結露が発生する場合があります。ビニール袋などに入れてから室内に持ち込み、カメラを室内の温度になじませてからご使用ください。
- カメラを長期間使用しないと、カビがはえるなど故障の原因となることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- カメラのそばにクレジットカードや磁気定期券、フロッピーディスクなどの磁気の影響を受けやすいものを近づけないでください。データが壊れて使用できなくなることがあります。
- 三脚に取り付ける際は、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。
- 本体の電気接点部には手を触れないでください。
- レンズに無理な力を加えないでください。

電池について

- 当社製リチウムイオン充電池は、当社デジタルカメラ専用です。他の機器に使用しないでください。
- 電池の(＋)(－)端子は、常にきれいにしておいてください。汗や油で汚れていると、接触不良を起こす原因となります。充電や使用する前に、乾いた布でよく拭いてください。
- 充電式電池をはじめてご使用になる場合、また長時間使用していなかった場合は、ご使用の前に必ず充電してください。
- 一般に電池は低温になるにしたがって一時的に性能が低下することがあります。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなど保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると性能が回復します。
- 撮影条件、使用環境および電池により、撮影枚数が減少することがあります。
- 長期間の旅行などには、予備の電池を用意されることをおすすめします。海外では地域によって電池の入手が困難な場合があります。
- 使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には、(＋)(－)端子をテープなどで絶縁してから最寄の充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。
  詳しくは有限責任中間法人JBRCホームページ(http://www.jbrc.com)をご覧ください。

Li-ion 00

液晶モニタについて

本製品は背面の表示に、液晶モニタを使用しています。

- カメラを太陽などの強い光線に向けると、内部を破損するおそれがあります。

- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、直ちにせっけんで洗い流してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えることがありますが、故障ではありません。記録される画像には影響ありません。
- 一般に低温になるにしたがって液晶モニタは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した液晶モニタは、常温に戻ると回復します。
- **本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

その他のご注意

- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止します。また、無断転載は固くお断りします。
- 本製品の不適当な使用による万一の損害、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、当社指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、付属のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップル社の商標または登録商標です。
xD-ピクチャーカード™は商標です。
microSDはSDアソシエーションの商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会(JEITA)で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

このマークは、オリンパスグループが地球環境保全のために、独自に設けた基準を満たした製品のみに与えられるマークです。

ECO-PRODUCTS

仕様

カメラ

形式	:	デジタルカメラ(記録・再生型)
記録方式		
静止画	:	デジタル記録、JPEG(DCF準拠)
対応規格	:	Exif 2.2、DPOF、PRINT Image Matching III 、PictBridge
静止画音声	:	Waveフォーマット準拠
動画	:	AVI Motion JPEGに準拠
記録媒体	:	内蔵メモリ xD-ピクチャーカード(16MB ～ 2GB) (TypeH/M/M+, Standard) microSDカード/ microSDHCカード (付属のmicroSDアタッチメント使用時)
カメラ部有効画素数	:	1200万画素
画像素子	:	1/2.3型CCD(原色フィルター)
レンズ	:	オリンパスレンズ6.7 ～ 20.1mm、F3.5 ～ 5.0 (35mmフィルム換算38 ～ 114mm相当)
測光方式	:	撮像素子によるデジタルESP 測光、スポット測光
シャッター	:	4 ～ 1/1000秒
撮影範囲	:	0.5m ～ ∞(W・T)(通常) 0.2m ～ ∞(W)0.3m ～ ∞(T)(マクロ時) 0.07m ～ 0.5m(Wのみ)(スーパーマクロ時)
液晶モニタ	:	2.7型(インチ)TFTカラー液晶、230,000ドット
コネクタ	:	DC入力端子/ USB端子/ AV出力端子(マルチコネクタ)
自動カレンダー機能	:	2000 ～ 2099年の範囲で自動修正
使用環境		
温度	:	0 ～ 40°C(動作時)/ -20 ～ 60°C(保存時)
湿度	:	30 ～ 90%(動作時)/ 10 ～ 90%(保存時)
電源	:	専用リチウムイオン電池(当社製LI-42B/LI-40B)1個または専用ACアダプタ
大きさ	:	幅89.0mm × 高さ55.5mm × 厚さ20.0mm(突起部を除く)
質量	:	105g(電池/カード別)

リチウムイオン充電池LI-42B

形式	:	充電式リチウムイオン電池
公称電圧	:	DC3.7V
公称容量	:	740mAh
充放電回数	:	約300回（使用する条件により異なります。）
使用環境		
温度	:	0 〜 40°C（充電時）／ -10 〜 60°C（動作時）／ -20 〜 35°C（保存時）
大きさ	:	幅31.5mm × 高さ39.5mm × 厚さ6.0mm
質量	:	約15g

充電器LI-41C

Model No.	:	LI-41CAA/LI-41CAB/LI-41CBA/LI-41CBB
定格入力	:	AC100 〜 240V（50/60Hz）
定格出力	:	DC4.2V、600mA
充電時間	:	約2時間（付属のLI-42B充電時）
使用環境		
温度	:	0 〜 40°C（動作時）／ -20 〜 60°C（保存時）
大きさ	:	幅62.0mm × 高さ23.5mm × 厚さ90.0mm
質量	:	約65g

microSDアタッチメント

形式	:	microSD専用アタッチメント
使用環境		
温度	:	-10 〜 40°C（動作時）／ -20 〜 65°C（保存時）
湿度	:	95%以下（動作時）／ 85%以下（保存時）
大きさ	:	幅25.0mm × 高さ20.3mm × 厚さ1.7mm（持ち手部2.2mm）
質量	:	約0.9g

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

索引

英数／記号

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

OLYMPUS

オリンパスイメージング株式会社

〒163-0914　東京都新宿区西新宿2の3の1 新宿モノリス

● **ホームページによる情報提供について**

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&A等の各種情報を当社ホームページで提供しております。
オリンパスホームページ **http://www.olympus.co.jp/** から「お客様サポート」のページをご参照ください。

● **製品に関するお問い合わせ先（カスタマーサポートセンター）**

フリーダイヤル

0120-084215

携帯電話・PHSからは042-642-7499

FAX　042-642-7486

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

※ カスタマーサポートセンターの営業日・営業時間、最新情報についてはオリンパスホームページにて情報提供しております。
オリンパスホームページ http://www.olympus.co.jp/ から
「お客様サポート」のページをご参照ください。

● **修理に関するお問い合わせ・修理品ご送付先（修理センター）、国内サービスステーション（修理窓口）につきましては、本製品に同梱の「オリンパス代理店リスト」、またはオリンパスホームページ http://www.olympus.co.jp/ から「お客様サポート」のページをご参照ください。**

※ 記載内容は変更されることがあります。最新情報はオリンパスホームページ
http://www.olympus.co.jp/ をご確認ください。

Printed in Indonesia　VN148401

1AG6P1P5306--